

公立大学法人 滋賀県立大学

スチューデントファーム

「近江楽座」

まち・むら・くらしふれあい工舎

2014 年度 活動報告書

近江楽座＝学生らしさを活かして地域に学び、育ち、貢献できる場 をめざしています

地域活動のための視座—近江楽座学生委員会の活動

地域活動を行うために必要なことは何だろうか？準備、段取り、技術、知識、知恵、やる気、コミュカ。足りないのは経験だけだ。10年続いた近江楽座の活動には、先人たちの経験に培われた地域とのプラットフォームはすでにある。しかし、活動メンバーは毎年新しいメンバーが入ってくる。それは企業でも同じだ。その新人たちをトレーニングする仕組みが急務だった。

これまで近江楽座学生委員会が果たしてきた役割は、プロジェクト間の交流や、広報、アーカイブ作りだった。どちらかといえば事務的な活動だったものが、最近、様々な勉強会やセミナー活動を開催している。それは、地域活動の現場に入るための準備活動なのだ。地域活動のリテラシーを学ぶことで、プロの仕事の凄さや、社会的責任を知ることができる。学生としてのアカデミックで真摯な姿勢は時として、融通無碍に対処することを否定してしまう。活動リスクを未然に防ぐ準備や、発生した場合の的確な対応が必要だ。そんな実践的な安全管理術を学ぶスキルアップ講座は、地域活動だけでなく普通の学生生活に必要な大切な気づきを生む。映像、印刷、広報などの技術の特技に変えて現場に生かしていく「寺CO座」は、得意な学生たちが自主企画して、お互いにアドバイスできる学内プラットフォームとなった。人に伝えたいことをわかりやすく伝える技術は、地域活動では無くてはならない学生たちの武器となっていく。

今年度、学生たちが行ったその他の活動を上げてみよう。新入生に向けての合同説明会「楽座市」では各チームの活動広報や、活動成果などをオリジナル商品として販売を行った。海外からの留学生に向けての説明会や、学生同士の交流会「ぞろぞろ会」、オープンキャンパスでは近江楽座のブースを設置して高校生たちに大学での地域活動を説明した。ウェブサイトやSNSを駆使して身近な情報のやりとりは容易となり、異なるプロジェクトのイベントを知り、チーム間の参加を通じてプロジェクトの協働が進んでいる。チームが競い合っているわけではない。勝ち取った達成感をモチベーションとしているわけではない。メディアに載ることが目的ではない。近江楽座に関わらずこの大学に来るとやりたいことが見つかるのだ。このような校風、学生

気質が育ってきたのは、地域というフィールドをキャンパスに代わる学びの場としてきた滋賀県立大学の姿勢にある。地域に根ざした公立大学こそ今の社会におけるリベラルアーツの基本とも言える教育の場を提供している。毎年のごとだが、持続が力を生む。毎年同じことをどれだけ長くできるかが地域活動の基本だ。これからの活動には学生委員会が果たす役割がさらに重要になってくる。しっかりとした視座をもって、頑張っている学生たちを応援したい。

平成 28 年 1 月
近江楽座専門委員会委員長
印南比呂志
(人間文化学部 生活デザイン学科)

目次

はじめに	1
1 近江楽座について	5
1-1 近江楽座とは	6
1-2 プロジェクト区分	7
1-3 プロジェクトの採択について	8
2 各プロジェクトからの活動報告	11
2-1 活動実績報告	11
2-2 『らくざしんぶん』	48
3 共通プログラムの報告	53
3-1 10周年記念企画「学生地域活動交流キャンプ in 琵琶湖」	54
3-2 地元学入門	60
3-3 活動報告会	61
4 学生有志活動	65
4-1 近江楽座 合同説明会	66
4-2 オープンキャンパス	68
4-3 ぞろぞろ会	69
5 他大学等との交流	71
5-1 福井大学視察	72
5-2 中部地区 COC 事業採択校学生交流会	73
6 情報発信	75
6-1 ホームページ、プロジェクトレポート、リーフレット	76
7 付録	79
7-1 プログラム推進メンバー	80
7-2 メディア掲載一覧	81

1 近江楽座について

1-1 近江楽座とは

滋賀県立大学の“スチューデントファーム「近江楽座」-まち・むら・くらしふれあい工舎-”は、地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する。」を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定し、全学的に支援する教育プログラムです。

平成 16 年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組み支援プログラム(現代 GP)」に採択され、平成 18 年度までの3年間の活動実績が大学発地域貢献の先進的な取り組みとして学内外で高く評価されました。そして、翌平成 19 年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、平成 26 年度までの 11 年間で延べ 245 のプロジェクトが活動してきました。これまでに培ってきたノウハウや地域とのつながりを活かし、多彩な活動を展開しています。

| 教育効果を高め、大学と地域の連携を深めるための3つの目標

- 地域の課題に大学・学生が取り組み、地域の活性化に向けて共に活動する。
- 学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを体験する。
- 大学と地域が共同して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる。

| 3つのサポートシステム

近江楽座専門委員会・学生委員会・近江楽座事務局(地域共生センター)の連携の下、3つのサポートシステムにより、全学的に活動を推進しています。

■ 活動助成システム

“スチューデントファーム「近江楽座」”として選定されたプロジェクトの事業計画に基づき、活

動に必要な事業費を審査し、助成します。

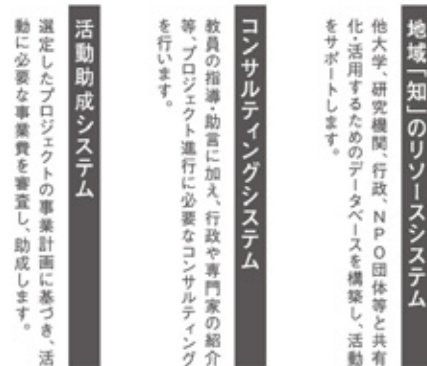
■ コンサルティングシステム

教員の指導・助言に加え、行政や専門家の紹介など、学生がプロジェクトを進めていくために必要なコンサルティングを行います。

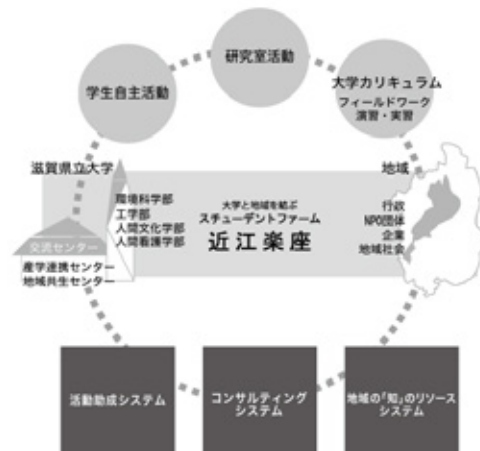
■ 地域「知」のリソースシステム

大学と地域連携に係わる情報を他大学、研究機関、行政、NPO 団体などと共有化・活用するためのデータベースを構築し、活動をサポートします。

<3つのサポートシステム>



<サポートシステム概念図>



1-2 プロジェクト区分

平成 19 年度より、「地域活性化への貢献」をテーマに学生主体の地域活動を行う「A プロジェクト」に加え、新たに、自治体や企業等から提示された課題について、学生主体のプロジェクトチームを結成し活動する「B プロジェクト」がスタートしました。

｜ A プロジェクト

「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。

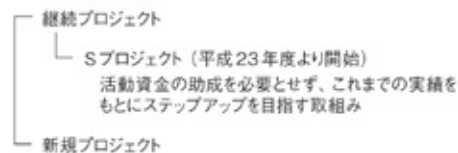
昨年度までの継続活動を対象とした①「継続プロジェクト」、新規活動を対象とした②「新規プロジェクト」、さらに平成 23 年度から新たに③「S プロジェクト」として、これまでの実績をもとにステップアップを目指すプロジェクトで活動資金の助成を必要としないプロジェクト、の 3 つの区分で募集し、支援するプロジェクトを選定しています。

｜ B プロジェクト

自治体や企業、団体等から依頼のあった課題について、「近江楽座」として取り組むテーマを設定し、学生主体のプロジェクトを募集します。学生チームにはテーマに対する企画提案を求め、採択されたチームは、指導教員と地域共生センターがフォローし、依頼先と共同で取り組みます。

A プロジェクト

「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動プロジェクト。



B プロジェクト

学生主体のチームが自治体や企業等から提示された課題に、プロポーザル方式で企画提案を行い、選定されたチームと依頼先とが共同で取り組むプロジェクト (平成 19 年度より開始)

｜ プロジェクト募集期間

A プロジェクト

日時：2014年4月10日(木)～5月7日(水)

｜ 募集説明会

A プロジェクト

日時：2014年4月14日(月) 12:30-13:00

場所：講義棟 A4-107

｜ 応募件数

A プロジェクト

18 チームうち継続プロジェクト 18 件

(S プロジェクト1件含む)

｜ プロジェクト審査

A プロジェクト「公開プレゼンテーション・審査会」

日時：2014年5月17日(土) 9:30-15:00

場所：講義室 A3-301

内容：プレゼンテーション(プレゼンテーションシートによるプロジェクト説明)および質疑応答、審査(非公開)

選定委員(順不同 敬称略)：

- 滋賀県立大学 副理事長 川口逸司
- 滋賀県立大学環境科学部 助教 小野奈々
- 滋賀県立大学 地域共生センター 准教授 萩原和
- 滋賀県企画調整課 副参事 森野実知子
- 彦根商工会議所 経営指導員 迫間勇人

｜ 採択および採択通知

A プロジェクト

日時：2014年5月23日(金)

通知方法：近江楽座ホームページおよび学生ホー

ル掲示板にて通知

｜ 採択件数

A プロジェクト

18 チーム

うち継続プロジェクト 18 件

(S プロジェクト1件含む)

｜ 活動説明会

A プロジェクト

日時：2014年5月30日(金) 12:20-13:00

場所：講義室 A4-107

内容：活動全般にあたっての注意事項、事業計画、会計処理等の進め方に関する説明会



活動説明会の様子

<公開プレゼンテーションの様子>

事前に審査員の先生方にそれぞれの応募チームの事業計画書と予算計画書を目を通してもらい、公開プレゼンにて各チームの発表・質疑応答をふまえて、採点・審査を行いました。

当日は本学学生・教員・地域の方を含め、約70名の参加がありました。

チームはプレゼンシートを用い、プロジェクトの目的・意義や活動内容について4分間の発表を行いました。

プレゼンテーション後は、3分間の質疑応答です。審査員の先生方から、プロジェクト内容に対してのするどい質問がなげかけられる場面や、会場のからの質疑の声があがっているチームもありました。



時間	採択年数	チーム名	プロジェクト名
9:30~9:35			はじめの挨拶
9:35~9:42	1	① 継続 6年 (2005~2012)	フタワ-エネルギー「なの・わり」
9:42~9:49	2	① 継続 3年(2011~)	遊覧船大BASISERS
9:49~9:56	3	① 継続 10年(2004~)	未来看護塾
9:56~10:03	4	① 継続 1年(2013~)	三層建部
10:03~10:10	5	① 継続 9年 (2004~2011, 2013~)	男衆楽座
10:10~10:17	6	① 継続 10年(2004~)	Taga-Town-Project
10:17~10:24			休憩
10:24~10:31	7	① 継続 5年(2009~)	とよきらだ
10:31~10:38	8	① 継続 1年(2013~)	目のぼファンクラブ 学生サポートチーム
10:38~10:45	9	① 継続 7年(2007~)	ほ・ま・ん 志・ま・ん
10:45~10:52	10	① 継続 5年(2009~)	あかりんちゅ
10:52~10:59	11	① 継続 3年(2011~)	未来プロジェクト
10:59~11:06	12	① 継続 2年(2012~)	かみおかべ古書家活用計画 ->SERVING REALITY-
11:06~11:13			休憩
11:13~11:20	13	① 継続 2年(2012~)	エチューダント・キュレーターズ
11:20~11:27	14	① 継続 1年(2013~)	遊覧船しん部
11:27~11:34	15	① 継続 2年(2012~)	たけとも(竹の会) 友の会
11:34~11:41	16	① 継続 10年(2004~)	とよきと健康プロジェクト
11:41~11:48	17	① 継続 6年(2004~)	ボランティアサークル Harmony
11:48~11:55	18	① 継続 4年(2010~)	おとくらプロジェクト
11:55~12:10			終わりの挨拶
13:00~15:00			審査会(別会場にて非公開で行います)

発表スケジュール



各プロジェクトからの活動報告



活動実績報告

01	フラワーエネルギー「なの・わり」.....	12
02	内湖における侵略的外来種駆除	14
03	未来看護塾	16
04	町活 in 八幡.....	18
05	男鬼楽座.....	20
06	Taga-Town-Project	22
07	とよさただプロジェクト.....	24
08	たのうらまちづくりプロジェクト.....	26
09	信・楽・人-shigaraki field gallery project-	28
10	あかりんちゅ	30
11	木興プロジェクト.....	32
12	かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-	34
13	地域博物館プロジェクト	36
14	政所茶レン茶 ー.....	38
15	たけとも一竹の会所 友の会ー	40
16	とよさと快蔵プロジェクト	42
17	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト.....	44
18	おとくらプロジェクト.....	46

次ページ以降のチームデータについて補足説明

※近江楽座活動年度について

H : 不参加

H : 参加

を示しています

※メンバー数は、活動に関わった学生の総数です。

01 フラワーエネルギー「なの・わり」



植物を使った資源循環型社会の形成

地域の休耕田を利用して菜の花・ひまわりの栽培を行い、作成した食用油を活用後、廃食油から作成したバイオ燃料を利用する資源循環活動を行っています。また、地域の小学校やイベントに出展し、環境に関する啓発活動を行っています。

TEAM DATA

チーム名：フラワーエネルギー「なの・わり」
代表者：古川丈晴（工学研究科）
メンバー数：16名
指導教員：山根浩二、河崎澄（工学部）
活動場所：彦根市内
関係団体：菜の花プロジェクト、ひまわりBPFプロジェクト
近江楽座活動年度： [H16](#) [H17](#) [H18](#) [H19](#) [H20](#) [H21](#) [H22](#) [H23](#) [H24](#) [H25](#)

PROJECT

実施事業

- 1) 菜の花栽培
★見出し写真：草刈り (04/16)
- 2) ひまわり BDF プロジェクト参加
- 3) 小学校出前授業
- 4) 高大連携授業



高大連携授業燃料製作実験 (08/21)

- 5) 学園祭出店



湖風祭自転車発電 (11/08)

- 6) 菜の花エコフェスタ出店

1年の活動まとめ・考察(成果と課題)

今年度はヒマワリの栽培も行うことから、団体名を前身の「菜の花エネルギー」から、菜の花の「なの」とひまわりの「わり」をとって、フラワーエネルギー「なの・わり」に変更して活動を行いました。活動が前年度より多くなりましたが、メンバー間で仕事を分担し、個人の負担にならずに活動できたと思います。また、以前行っていた活動ブログを再開し、活動を多くの方々に知っていただくように心掛けました。

活動の課題としては、廃食油から作成したバイオディーゼル燃料の利用先が見つからないことが挙げられます。農家の吉島さんにトラクターへのバイオディーゼル燃料の利用を打診してみましたが、故障のリスクがあり、利用が難しいのが現状です。よって、自分たちで耕耘機などを購入する、または学内で利用されているトラクターに利用できるか打診してみる必要があると考えています。

今後については、団体のメンバーが研究室に配属された学生だけでなく、他学部他学科にも参加しやすい体制をつくる必要があると考えています。来年度は、運営の主体となる大学院生1年の数が1名であり、運営にあたって個人の負担が大きくなることが予想されます。勧誘を行わず、従来の研究室のメンバーのみで活動する形では活動継続が難しい事態に陥ることがあると思います。よって今後は、研究室以外のメンバーの勧誘に力を入れたいと考えています。1回生や、他学部の学生が団体メンバーとなることで、今まで気づかなかった欠点に気付くことができたり、人とのつながりが増えると思うので、来年度は新入生の勧誘や、楽座団体の横同士のつながりをもっと強くできるようにしたいです。

活動を通して学んだこと

社会人の方や他の楽座団体の方と話す機会が多く、多くの知見を得られたと思っています。バイオディーゼルについて研究を行っていますが、実際に畑から油がどれだけとれるのか、社会でどのように利用されているのか理解できてよかったです。メンバー間での話し合いがもっとできるようにしたいです。

古川丈晴（工学研究科機械システム工学専攻1回生）

一年間の農業や、植物を育ててバイオディーゼルを作るという一連のサイクルを全て体験できたのは、いい経験になった。循環型社会の形成を目標にしているが、それを実現することがいかに大変か身を持って学ぶことができた。

中村浩輔（工学研究科機械システム工学専攻1回生）

私はエンジンの燃焼、排気特性について実験しており、なたね油を燃料として使用しています。1回の実験だけで4Lほどの燃料を使用するのですが、1年間農業を通して、なたね油を作る大変さを知りました。これからの地球環境を守るための活動を自分自身の研究も交えて考えていきたいと思っています。

岩本大佑（工学研究科機械システム工学専攻1回生）

ドクターコースへの出戻り生である私にとって、実に5年ぶりとなる、なの・わりの活動でしたが、以前に比べて啓蒙活動が積極的に行われているという手応えを感じました。循環型社会の形成には地元の協力が不可欠です。今後も理解が得られるよう、地道に取り組んでいこうと思います。

森耕太郎（工学研究科先端工学専攻博士課程）

地域からのコメント

稲枝 休耕田提供者 吉島利博さん

団体活動の1年間の作業順序、内容などについての引継ぎ作業をしっかり行ってもらいたいと思う。また、菜種油の利用方法、活動状況も含め地域の人々に広報等で知らせるようにしてほしい。グループが作業に来てもらうことで、一時的ではあるが地域に活気づき、住民は喜んでいる。以上結論的には地元は歓迎しているので、活動を続けていってほしいと思う。

指導教員より

工学部 山根浩二

活動内容は十分にできたと思います。新たな事業にも取り組み今後の発展を期待できる予感がします。ただし、学生メンバーの範囲を広げることが、これまで以上に必要になってきています。今年1年の活動内容を維持するためにもぜひ広報活動を行ってほしいです。

DELIVERABLE

成果物／制作物



団体紹介パネル



「なの・わり」新聞（地域の方向け）

<その他成果物>

小学校発表スライド

湖風祭ポスター

菜種油

ひまわり BDF プロジェクト油

02 内湖における侵略的外来種駆除



守ろう！琵琶湖の在来種！

琵琶湖の内湖である神上沼において、オオクチバス・ブルーギルをはじめとした侵略的外来種の駆除・研究を行なう。また、駆除体験イベントや川遊びイベントを開催し、外来生物問題について知ってもらい、地元の水辺に親しみや興味を持ってもらう。

TEAM DATA

チーム名：滋賀県大 BASSER'S
代表者：北野大輔（環境科学部）
メンバー数：13名
指導教員：浦部美佐子、野間直彦（環境科学部）
活動場所：彦根市神上沼、滋賀県
関係団体：全国ブラックバス防除市民ネットワーク
近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

- (1) 第四回外来魚駆除釣り大会 in 神上沼



外来魚釣り大会 in 神上沼 釣りの様子 (06/28)

- (2) 県大水魚探検隊

- (3) 神上沼定例駆除活動

★見出し写真：神上沼駆除活動 (05/11)

- (4) 生き物観察会@愛西土地改良区



生き物観察会 生き物クイズ (06/15)

- (5) 外来魚駆除釣り大会補助活動

- (6) 外来魚問題啓発ポスター展示

- (7) 人工産卵床設置実験

1年の活動まとめ・考察(成果と課題) (抜粋)

今年度で我々の活動は4年目となり、創立メンバーのほぼ全員が大学を離れ、全く新しいメンバーでの活動であった。しかし、新メンバーを含めた全員が活動の目的を理解し、それぞれが活動の中できっちりと役割を果たすことができた。メンバーの中には活動を通して水生生物の研究に興味を持ち自ら行動するものもあり、活動内でのメンバーの成長を感じることもあった。

神上沼での活動における新たな試みとして、人工産卵床の設置やオオクチバスの個体数推定を行なったが、結果は思わしくないものであった。しかし、その研究過程においてメンバーが学んだことは多く、決して無駄なものではなかった。来年度以降、団体の活動は少しずつ変化していくと思われるが、活動を継続していく上で、新たなことに挑戦する気持ちを持ち続けていきたい。学生で駆除研究活動を行なう数少ない団体として、これから増えると考えられる学生団体をリードする存在になりたい。

啓発活動について、『水路探検隊』イベントを初めて開催した。参加者は少なかったが、内容としてはとても良いイベントとなった。啓発イベントは参加者がいて成り立つものであるため、参加者を多く募る方法を考え、より多くの人が水辺の環境に親しみや興味を持つような機会を提供していきたい。単にイベントを開催するだけで終わるのではなく、地域の水辺での課題を見極め、意味のある啓発活動を行なうことを目標とする。

また、新たな試みとして、外部イベントでのポスター展示を行った。この活動は、外来魚問題の啓発につながるだけでなく、自分たちの活動のアピールにもなる。活動を継続するにあたり、自分たちの活動の広報は非常に重要となるため、このような場合も、積極的に参加していきたい。

活動を通して学んだこと

活動に参加するまで、魚類にはほとんど興味がありませんでしたが、種類が分かるようになると活動も楽しくなり、外来魚問題にも関心を持つようになりました。先輩と一緒に外部で活動し、その様子を近くで見ることができたのもとても大きな魅力でした。ここで学んだことを少しでも将来に生かしたいと思います。

皆本静佳 (生物資源管理学科 2 回生)

BASSER'S に入ったばかりのころは、投網やイベントでの補助スタッフなど初めての体験ばかりで不安が多かったです。しかし、回数を重ねるごとに活動をだんだん楽しめるようになりました。ただ魚の知識があまりないことを痛感し、来年度からはそれを深めていこうと思います。

奥田悠暉 (環境生態学科 1 回生)

私は滋賀県大 BASSER'S の活動を通して、地域で活動するときにおいて自分の活動を応援してくれる人ばかりではなく、自分たちの活動をよく思わない人もいるということを知った。また、仲間と同じ活動をするの楽しさを知ることができ、自分自身も成長することができた。

西山浩史 (環境生態学科 1 回生)

私は活動を通して、たくさんの人々と協力することの重要性を学んだ。メンバー間の協力はもちろん、地域の方々の理解や行政とのつながりも問題の解決に必要なことだと実感した。私はこの活動により、普段の大学生活では経験できないような貴重な時間を過ごすことができた。

久岡知輝 (環境生態学科 1 回生)

地域からのコメント 愛西土地改良区 魚住俊介さん

(神上沼の管理、BASSER'S 参加イベントの主催者)

毎年、我々の開催するイベントで子供たちにご指導頂き、ありがとうございます。バサーズさんの「生き物観察会」は毎年大人気で、子供たちがとても楽しそうな顔をしているのが印象的です。また来年度以降もよろしくお願いたします。

イベントも年に数回継続して開催されているようですね。いつも企画書を提出していただき、広報などで協力させていただいています。私自身は昨年度に一度参加させていただきましたが、すごく楽しいイベントでした。大学生のみなさんのような若い方々の活動は、子供たちにとっても素晴らしい刺激になると思います。今後も、地域の子供たちに楽しいイベントを開催して欲しいと思います。

指導教員より

環境科学部 浦部美佐子

BASSER'S の活動も 5 年目となり、環境学習や他団体と共同しての外来生物駆除活動などによって、地域に認められ、定着してきたと思います。日頃の地道な活動の成果が結実しつつあることを評価したいと思います。今後は、県大周辺の生態系管理に際して県や地域から頼られる存在になっていくと思いますので、地域の保全を担う団体として自覚と責任を持って活動してください。毎年の駆除のデータも蓄積されてきたので、そろそろデータを検討して、今後の駆除戦略の再検討も行ったほうがよいでしょう。

DELIVERABLE 成果物 / 制作物



滋賀県大 BASSER'S 2014 年度活動報告書

03 未来看護塾



心も体も生き活き健康に！

地域の人々や医療現場の看護職、ボランティアの方々といった全ての人を対象に交流する機会を持ち、看護における対人関係の意義を学ぶ。また、様々な年代や条件の人との関わりから人が人として、その人らしく生きることを志向することを目的とする。

TEAM DATA

チーム名：未来看護塾

代表者：小番裕貴（人間看護学部）

メンバー数：100名

指導教員：伊丹君代（人間看護学部）

活動場所：彦根市内、宮城県南三陸町歌津地区田の浦

関係団体：彦根市立病院、NPO 法人ぼぼハウス

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

- (1) 「ちびっ子広場」（彦根市立病院まつり、湖風夏祭・湖風祭）
- (2) はばたきチャレンジャー
- (3) 宮城県南三陸町「いきいき健康交流ひろば」
★見出し写真：いきいき健康交流ひろば (10/12)



いきいき健康交流ひろば (10/12)

- (4) 野瀬町地藏盆・長寿会への参加
- (5) ビバシティ彦根「応援！生き活き健康生活」



応援！生き活き健康生活 (10/04)

- (6) 彦根市市民病院小児病棟でのクリスマス会
- (7) おおつ健康フェスティバル
- (8) ぼぼハウス主催イベントへの参加

1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の活動を通しての一番の成果としては、田の浦での「いきいき健康交流ひろば」のイベントを成功させられ、参加メンバー全員が達成感を得られたことだ。昨年度の同イベントに参加したメンバーに聞くと、現地の方の役に立てたのか分からないという感想があった。その理由としては、イベントの進行に追われ、現地の方たちと深い交流が持てなかったことだと考え、今年度のイベントでは、会場を小さいものに変更し、より地域に密着した形でのイベントを開催した。その結果、来客数としては減少したが、進行を行いつつ震災の体験談なども聞き、現地の方々と深く交流でき、“祖父母と孫”のような関係を築くことができた。被災者支援において、相手の話を傾聴の姿勢で聞き、ハンドマッサージや足浴によって癒しを与えるなど、私たち看護学生だからこそできる支援を続けていきたい。

また、普段の活動では、ミーティングで参加を呼びかけたり、直接声をかけるなどして、参加率の低下を防ぐように心掛けた。しかし、毎年課題としても出ている通り参加率の減少がみられ、今後の課題として、もっと大々的に取り組むべきだと考える。来年度では、みかん通信などの広報面の強化、紙面だけでは伝わらないことを口頭で伝えるなど、活動で得た学びを共有し、活動に参加することの意義をメンバー全員に知ってもらえるようにする。また、定期的な活動に対するマンネリ化を防ぐために高齢者を対象にした活動を新しく始めたい。

そのほか課題として、活動記録としてあまり写真を撮れていなかったため、活動ごとに記録係を設け、写真を残すようにしたいと思う。またブログをあまり更新できていなかったため、活用するように心がけたいと思う。そうすることで私たちの活動を多くの人に知ってもらうことができるだろう。

活動を通して学んだこと

定期的な活動へ参加は多くないが、周りのメンバーを誘い一緒に参加したり、開催されるイベントには可能な限り参加し、様々な人々との接し方を生の体験から学べた。また田の浦イベントの計画や統率から、効率的にするにはどう動くべきかなど、リーダーとして多くの学びを得られた。

小番裕貴 (人間看護学科2回生)

幅広い年齢層、様々な健康・発達状況の人と関わる機会を得ることができ、人との関わり方を学ぶ、貴重な経験ができた。また、イベントでは、対象とする人たちを楽しませ、健康について考えてもらうきっかけとしてもらうためにはどうすればよいか、仲間たちと企画する難しさと楽しさを知ることができた。

角井里奈 (人間看護学科2回生)

看護学生の立場から様々な活動に参加してきて、老若男女の多くの人々と触れ合うことができた。また、発達障害者との関わりを通して、広い視点で周りを観る大切さを感じることができた。このような経験ができたのは、未来看護塾として活動に参加してきたからであると思う。

金子萌 (人間看護学科2回生)

地域からのコメント (抜粋)

障がい児通所支援施設はばたき 管理者 藤澤聡さん

自分の想いを伝える事の苦手な子ども達が、笑顔で一生懸命に自分の想いを伝えたり、寄り添う姿は、日常的に関わる私達スタッフに見せる姿とは異質のいきいきと光り輝く表情です。自分の想いを相手に伝える事は、子ども達が社会に出た時に「教えてほしい」「手伝ってほしい」と伝えられる力につながるもので、社会生活をする中では必要不可欠な生きる力となります。

本年も外出、調理、創作活動など多様な活動に尽力頂き、体験を積み重ねることが出来ました。これらの体験が、生きた経験となり、子ども達は見違えるほど大きく成長する事が出来ました。これもひとえに未来看護塾の皆様方が、目的を明確に持ち、真摯に活動に参加頂き、お力添えいただき事により得られた成果である事をご報告し、御礼を申し上げます。

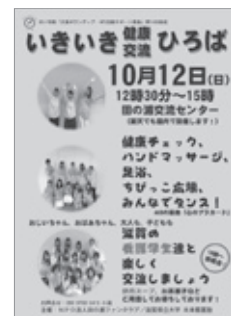
指導教員より (抜粋) 人間看護学部 伊丹君代

未来看護塾は「近江楽座」とともに育ってきました。人間看護学部の1期生たちが立ち上げて以来、11年間継続して活動を続けています。少子高齢社会の今、地域では高齢者さんや子育て中のお母さんたちが心と身体の健康について相談できる仲間を求めておられます。また、いつ起こるかわからない災害への対策をはかる必要もあります。そのためにも、地域のネットワークを拡大していくことが大切です。未来看護塾はそのような地域課題を少しでも解決できるよう、定期的な活動はもちろんのこと、地域住民の心と体の健康、ネットワークづくりを目指して、日々奮闘しています。被災地である宮城県南三陸町における健康交流活動も継続しており、学生たちは被災地の方々と笑顔と元気を交換し合っています。

DELIVERABLE 成果物/制作物



みかん通信 2014 秋号



いきいき健康交流ひろば チラシ

<その他成果物>

みかん通信 2014 冬号

いきいき健康交流ひろば 感想

04 町活 in 八幡



八幡にいらっしやい！

歴史的な建築物が多く残る滋賀県近江八幡市で、昨年度は多くの方に三階蔵の存在を知ってもらうことができた。今年度は扱う建築物を増やし、建築年代や使用用途がそれぞれ異なる民家を地域資源として活かすことを目的に活動した。

TEAM DATA

チーム名：三階蔵部
代表者：岡本香菜（人間文化学部）
メンバー数：21名
指導教員：濱崎一志、石川慎治（人間文化学部）
活動場所：学内／近江八幡市
関係団体：近江八幡文化振興課
近江楽座活動年度： **H16** **H17** **H18** **H19** **H20** **H21** **H22** **H23** **H24** **H25**

PROJECT

実施事業

(1) 八幡堀 DAY



八幡堀 DAY(09/13)

(2) 伴家公開イベント

(3) パネル展



パネル展 (09/01-10/31)

(4) 広報活動

(5) 他地域への視察・連携

(6) 町並み研究会

★見出し写真：今井町視察 (05/17)

1年の活動まとめ・考察(成果と課題) (抜粋)

メインイベントである八幡堀 DAY では、多くの成果を上げることができた。数多くの来場者数から、八幡の地域資源を多くの方に認知していただいたことはもちろん、夜の公開や現在住まわれている住宅の公開など新しいことも多く行った。そして、何よりの成果は、T氏やその地域の住民の方々の郷土愛を増進させることができた点にある。地域資源の魅力は、なにより地域の方に郷土愛がなければ、相手にもその魅力は伝わらない。

昨年度の課題であった広報不足(特に地域の方に対して)の課題の解決にも積極的に取り組んだ。パネル展はもちろんのこと、近江八幡デザイン・カレッジ設立記念フォーラムでの発表や新聞などのメディアにも積極的に働きかけるなどした。特に、前者は近江八幡市で地域活動を行っている方々に効果的にPRでき、交流もすることができた。奥村家住宅の管理団体である株式会社まっせとも、このフォーラムで知り合い、八幡堀 DAY で奥村家住宅を公開することにつながった。

また、今年度は外部からの公開要請もあった。八幡堀 DAY で公開を行った伴家住宅では、管理者から公開要請があり、もういちど公開イベントを行った。このイベントでは、公開だけでなくT氏の手芸作品の販売コーナーも設け、地元の方の交流をする場も提供することができた。

以上のように、今年度は多くの成果を上げることができたと考えている。今後の展望としては、T家住宅での地元の方の交流の様子から、今後もっと公開民家を増やすことできるであろうと考えている。公開活動をもっと積極的に行い、地元の方の郷土愛を増進させ、もっと活気のある地域にし、地域を問わず、もっと多くの方に近江八幡の地域資源の魅力を広げていくのが今後の展望である。

活動を通して学んだこと

今年度は代表として、町並み保存に積極的な地域の方々とお話ができ、みなさんの地元愛を改めて実感できました。最近では人口移動が激しくなり、各地域の魅力が忘れられがちですが、地域の魅力を発信していけるこのような活動が今後も続いていくことを願います。

岡本香菜 (地域文化学科4回生)

「八幡堀 DAY」では、近江八幡の伝統的建造物を通して町の魅力を伝えることができました。イベントには多くの方が訪れ、建物の解説に興味深く耳を傾けてくださる姿が見られました。今後も近江八幡の魅力を伝えていくために、伝統的建造物への理解をより深めていきたいと思います。

川瀬朋子 (地域文化学科3回生)

今年度事業の「八幡堀 DAY」では、夕刻に建物の公開イベントを行ったこともあり、地元の方も知らない夜の建物や庭、町なみを見ていただくことが出来ました。夜間のイベントでは、照明器具の配置方法や安全確保の検討など新たな課題もありましたが、メンバーで知恵を出し合い大成功を収めました。

木村駿介 (地域文化学科4回生)

地域からのコメント (抜粋)

公益財団法人 八幡教育会館 出口登志恵さん

事業の内容をグレードアップしたり、毎回違うアプローチを試みる姿勢は素晴らしいですが、このような事業は無理をして息切れするより、継続させることも重要です。近江八幡には大学がないので、学生がこの町で何らかの事業をすること自体が大変貴重で、喜ばれるのではないのでしょうか。マンネリでは?と思っても、自分たちが楽しめるなら、同じ事を継続させることも大切だったりします。実は私もいつもそれを念頭に置いて伴家での仕事をしています。住民や観光客の双方とも年齢層の高いエリアですから、どのような形であれ、学生達の継続した活動がこの地に根付いて行く事を期待しています。

濱崎先生の解説を聞くたびに新たな知識を得られ、随時お客様への説明に反映できて私にはとても有意義な事業となっています。皆さんが考える近江八幡の良い部分をこれからも発表し続けてくださいね。

指導教員より

人間文化学部 濱崎一志

今年度の活動はかなり計画的に進められてきた。先進事例の視察、イベントの準備、実施、成果の公表などを着実に進められ、特に主要なイベントであった八幡堀 day では、近江楽座の他のチームや、近江八幡市立資料館、八幡教育会館、株式会社まっせ、町家の所有者であるTさんとの綿密な連携を図った上での事業の遂行は手堅いものであった。

近江八幡でも少子・高齢化の影響により空き町家の増加、地域の活力の衰退など様々な問題が増えつつある。今年度のような町家や地域の文化財を活かした地域の活性化を図る事業が、持続可能な形でさらに幅広く展開されることを期待する。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



伴家公開イベントパネル (全9種類)



八幡堀 DAY 告知ポスター

05 男鬼楽座



未来を紡ぐ、男鬼の茅葺き

男鬼町を中心に山間集落を通して文化的景観資源の保存と活用を考える。毎年7月には茅葺き屋根の葺き替えイベントを開き、楽座メンバーや職人に加え多くの他大学学生・一般の方を招いている。

TEAM DATA

チーム名：男鬼楽座
代表者：大上将吾（人間文化学部）
メンバー数：26名
指導教員：濱崎一志、石川慎治（人間文化学部）
活動場所：彦根市男鬼町
関係団体：関西地域活動学生連盟
近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

- (1) 男鬼地区での茅葺き屋根葺き替え作業
★見出し写真：茅葺き (07/21)
- (2) 城楽邸での茅葺き屋根葺き替え作業



城楽邸イベント (09/27)

- (3) 茅刈りイベント
- (4) 湖風祭での活動紹介ブースの出展
- (5) 学生地域活動交流キャンプでの活動紹介イベント参加
- (6) 関西地域学生連盟の交流イベント参加



関西地域学生連盟竹かごづくりワークショップ (03/07)

1年の活動まとめ・考察(成果と課題) (抜粋)

申請時から計画していた、男鬼での茅葺き屋根葺き替えイベント、城楽邸でのイベント、伊吹山での茅刈りイベントはどれも予定通りに行った。どのイベントでも職人をお招きし、その都度、茅葺き技術を教えてもらい、実際に体感して学ぶことが出来た。しかし、簡単には職人のように作業が出来るわけではない。そのため事前葺き替えに必要な縄結びの講習をしたり、活動の中で経験を積み、また仲間とも教え合いながら活動して、少しずつ技術を習得できたと思う。そして職人から教わったことを、自分だけでとどめておくのではなく、他のイベント参加者の方に教えることができた。また逆に他の参加者から自分たちの知らないことを教えてもらうこともあり相互に技術の伝承が出来るように動けたのではないかと感じる。イベントの際には、1日目にうまくできなかったことを2日目、3日目には直せるように毎回反省をし、何をすべきかを考えて自分が一番に動く、ということを一ひとりが意識できるようになってきているのではないと思う。

今年度の活動の反省として挙げられることは、自分たちが葺き替えた茅葺き民家を他に活用することができなかったという点である。10年以上この地域で活動してきた結果として、男鬼は葺き替えイベントを体験する場所としても非常に価値のある場所となってきたように感じるが、それ以外の活用もしていきたい。実際に葺き替えに参加して体験する方法も重要であるが、それができないお年寄りや子供にとっては他にイベントを行い貴重な茅葺き民家を公開し見てもらうことで伝統を伝えていくこともできたのではないと思う。今後は茅葺き民家の様々な面での活用を考えていきたいと思う。

活動を通して学んだこと

昔の人が当然にできていたことの多くを今の人はできなくなってきたと、職人さんから指摘された。便利な暮らしの代償として、文化が失われつつあることを実感する。男鬼の活動を通して文化を継承する世代は自分たちであることを再確認した。

大上将吾 (地域文化学科3 回生)

イベントの主催にあたり責任感を持って取り組むことの大切さを学んだ。イベントでは企画者である私たちの認識の甘さが目立った。学生といえども、主催する以上自分たちの行動に責任を持ち、参加者に満足して頂けるような仕事をする必要がある。

田村和樹 (地域文化学科3 回生)

イベントを通して、“茅葺き”の魅力・奥深さを知ることができたと同時に、こうした魅力や奥深さを広める事業の意義を改めて感じた。イベントの目的を果たすためにも、イベント当日の動きだけでなく、事前準備も重要であることを感じた。

太田雄三 (地域文化学科3 回生)

地域からのコメント (抜粋)

城楽邸家主 城楽直さん

小学生の私は萱ぶきの古い家がありませんでした。冬は寒いし、すずは落ちてくるし・・・。当然見向きもしなかった萱の葺き替え作業、塾生さんや学生さんに交じって作業に加わるうちに、協働作業の楽しさを感じ、いつしか「この作業には日本人の住の原点があるな」という大それた思いさえ持つようになりました。昔は屋根の葺き替えは村人総出で、お互いに作業を助け合う「結い」の精神で行っていたことに思いが及びました。「男鬼楽座」の皆さんはいいところに眼をつけてくれました。若い学生さんたちが日本の原風景に溶け込み、それを後輩たちにも伝えていってくれることはとても価値のあることです。どうか今後でも活躍を祈るとともに、また私どもの古民家に関わってくださるようお願いします。

指導教員より (抜粋) 人間文化学部 濱崎一志

今、茅葺きの屋根が危機に瀕している。茅葺き職人の減少、茅場の消滅、葺き替え費用の高騰、「結い」の衰退などがその大きな要因である。「結い」とは地域社会の小さな集団の中で、労働力を対等に交換しあって田植え、稲刈りなど農の営みや住居など生活の営みを維持していくために共同作業をおこなうこと、もしくはそのための相互扶助組織のことをいう。労力、資材、資金の貸し借りをおこなう、地縁にもとづく「近所付き合い」であった。「結い」が機能していた時は村人が少数の茅葺き職人の手伝いとして働き、葺き替え費用を軽減することができた。今は職人が茅の裁断、運搬、葺き替えなどすべての作業をおこなうため、費用の高騰を招いている。茅葺き屋根を維持していくには、「結い」の復活が大きな課題であるが、少子・高齢化が急速に進む中山間地域においては、地域社会の中で「結い」を再構築することは困難である。学生や一般市民のボランティアを含む新しい「結い」の構築が喫緊の課題である。

DELIVERABLE 成果物/制作物



男鬼茅葺き屋根葺き替えイベント告知チラシ



伊吹山茅刈り体験イベント告知チラシ



湖風祭出展ポスター

06 Taga-Town-Project



多賀を好きになってもらおう！

学生が、町の人とイベントや取材などを通じて多賀の魅力を発見すると同時に、それを内部・外部に発信する。そして、活動の中で学生と地域の継続的かつ新しいコミュニケーションの形を構築していくことを目指す。

TEAM DATA

チーム名：Taga-Town-Project

代表者：小川大輔（人間文化学部）

メンバー数：19名

指導教員：松岡拓公雄、迫田正美（環境科学部）

活動場所：犬上郡多賀町

関係団体：有限会社 A-SITE、多賀町商工会

近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

(1) 八百秀アパートプロジェクト



道具箱作り (05/18)

(2) e モールたがプロジェクト

★見出し写真：みずほ製菓取材 (08/19)

(3) 広報プロジェクト

(4) お手伝い引き受けますプロジェクト



こんにゃく芋土寄せ作業 (07/05)

(5) 淡路島研修

(6) 町のお祭りに参加

1年の活動まとめ・考察(成果と課題) (抜粋)

今年度得られた成果としては、e モールたがプロジェクトにより、地域での取材や facebook 上での情報拡散を通じて、多賀内外での Taga-Town-Project の情報力が向上したことである。また、多賀町商工会とのより密接な連携と、地域の事業所等との新しいつながりを得ることが出来た。しかし、e モールたがの拡散が失速し始め、同時に各事業所と学生とのスケジュールが合わせにくかったこともあり、取材そのものも出来る機会が少なくなってしまう、ページの更新速度や話題提供にも限りが見え始めてしまった。来年度からも多賀町商工会と連携していく中で、積極的に学生と地域の方との意見交換やワークショップを開き、策を講じていく必要がある。

一方で、お手伝い引き受けますプロジェクトなどを通して、これまでに比べて町のイベントに多く参加する機会を頂き、学生と地域との交流を積極的に行うことが出来た。そして、淡路研修等、今までにない視野の活動が増えたことで、これからの活動の幅を増やしていく事を前向きに考える姿勢が身に付いた。

今年度の大きな問題として、メンバーの著しいモチベーションの低下が挙げられる。原因として、伝達不足・連絡の遅延は元より、そもそもメンバーに対して活動をしていく上でのテーマ性や目的意識の樹立が行われなまま事業を進めていたことに要因があると思われる。学生にとって、地域にとって、各事業がどのような意義を持つのかを分からないままこなしていたことで、学生も各事業にメリットを見つけられず、活動する意欲を削がれていった。来年度からは、メンバーひとりひとりが活動の意義を自覚しながら前向きに参加できるよう、今取り組んでいる事業を俯瞰し、何がメリットなのか、どのような可能性があるか、なにができるのか、などということを説明し、意義の明確化を進めていく必要がある。

活動を通して学んだこと

今年は地域のイベントに多く参加したり、e モールたがという新しい活動に参加したりと積極的に多賀に関われたと思う。広報プロジェクトと八百秀アパートプロジェクトがあまり活動できなかったが、来年度はTTPがイベントの主催となるような活動も積極的にしていきたい。

浜奈緒子 (地域文化学科2回生)

私は他の活動にも所属しているということもあって、行事にはあまり参加出来ませんでした。道具箱作りや、湖風夏祭・湖風祭での出店、e モールたが、淡路での研修など、参加していた行事はどれも私にとっては新しいチャレンジでした。来年度は今年行っていた行事に加え、新たな行事を生み出して行きたいと思います。

上平俊介 (地域文化学科1回生)

今年度は昨年度と同様に八百秀アパートプロジェクトや広報プロジェクト、多賀のイベント参加だけでなく、新たにe モールたがのプロジェクトに参入し、e モールたがを通して多賀をより発信できていた。しかし、e モールたがの活動に力を入れるあまり、他の活動が疎かになったのが反省点である。

田口夏帆 (環境生態学科1回生)

TTPに参加したことで、地域というものにはじめて目を向けるようになった。多賀に住む方々と実際に交流し、多賀の町を散策したりするなかで、多賀の良さ、面白さを肌で感じることができた。ごく一部の方々としかかわられていないので、今後は、よりいっそう積極的に多賀の方たちとかがわりあっていきたい。

宮本芽依 (国際コミュニケーション学科1回生)

地域からのコメント

多賀町商工会青年部総務委員長 久保田進吾さん

青年部事業である多賀バーチャル商店街『e モールたが』に協力して頂きありがとうございました。第三者の目で色々な業種を取材して頂き、僕たちでは身近であるがゆえに気付かなかった事がたくさんあり、とても勉強になりました。TTPさんにとっても多賀の事業者さんの色々な顔が見え、新しい発見があったのではないのでしょうか??その多賀町の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらい、発信して行く事が今後の課題です。今後とも青年部へのご協力の程、宜しくお願いします。

指導教員より (抜粋)

環境科学部 松岡拓公雄

今年度もTTPの活動は継続され、町にとっては欠かせない存在となっている。八百秀アパートプロジェクトやお手伝い引き受けますプロジェクトなど順調に継続されてはいる。ただ、町民から当たり前の存在になってしまった事は逆に停滞を招く要因ともなる。緊張感はなくなり依存度だけが増えて行く結果にならないか少々危惧している。人との繋がりがキーポイントだが、直接あって話し合うことは意識して実行しているので、それは今後とも意識すべきである。さらに工夫し、アイデアを出し、やることをやる、無理のないスタンスで続けていってほしい。

環境科学部 迫田正美

昨年度から取り組んできた「お手伝い引き受けますプロジェクト」は地域の方々との直接の交流を深め、地域の現状や人々の様々な地域活動を知ることができる良い機会になっているだけでなく、TTPの学生活動を地域に知ってもらうことにもつながっている。活動の進め方については昨年度まで活動をリードしていたメンバーの多くが卒業するなどしたため、苦労したと思う。各年度の学生が自主的に、自在に活動の方向性を決めるというのが良くも悪くもTTPの伝統?になっているけれども、他の楽座グループの運営方法なども参考にして、コアスタッフだけでなくメンバー全員がやりがいをもって活動に企画段階から積極的に参加できる仕組みづくりを考える必要があるのではないか。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



道具箱

<その他成果物>

TTP 新聞 in 淡路

e モールたが Facebook 記事

07 とよさらだプロジェクト



野菜作りで地域貢献！

とよさらだプロジェクトは滋賀県犬上郡豊郷町で使われなくなったビニールハウスを用いて、地域の方々に技術指導を受けながら野菜を栽培し、大学生協や彦根市の直売所などに出荷し販売するプロジェクトである。

TEAM DATA

チーム名：とよさらだ
代表者：上田和幸（環境科学部）
メンバー数：19名
指導教員：増田佳昭（環境科学部）
活動場所：犬上郡豊郷町
関係団体：豊郷町商工会、豊郷町役場産業振興課
NPO 法人とよさとまちづくり委員会
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

(1) 耕作放牧地での活動

★見出し写真：サツマイモ堀り (11/07)



馬糞の働き込み (03/14)



大根の出荷 (12/13)

(2) 農家さんとの米作り

(3) 坊ちゃんかぼちゃの植え付け

(4) とっと祭り出店

1年の活動まとめ・考察(成果と課題) (抜粋)

今年度とよさらだは、上半期はお米作りと坊ちゃんかぼちゃの栽培を行い、下半期は彦根市にある JA やさいの里二番館さんへの野菜の出荷を中心に行った。

坊ちゃんかぼちゃの栽培は、メンバー同士で協力して行い成功させることができた。しかし、坊ちゃんかぼちゃの販売では、メンバー同士の連絡がしっかりとできていなかったため、出荷の段取りがうまくできなかった。来年度も坊ちゃんかぼちゃの栽培をするため、メンバー同士の連絡をしっかりと行っていきたい。お米作りでは、草刈りなどの作業に参加するメンバーに偏りが見られたため、来年度は作業に参加する人を増やしていきたい。また、今年度は夏季休業中に作業をほとんど行えず、ハウスの中の土地に野菜が植わっていない状態が長く続き、野菜の出荷を行えなかった。来年度は、夏季休業中であっても作業を活発に行い、野菜の出荷を年間通して行っていきたい。

今年度は、豊郷町でのとっと祭りという夏祭りに参加した。反省点として、夏野菜の栽培の計画を前もって立てることができず、使用した食材の中でとよさらだ栽培した野菜は少なかったことが挙げられる。とっと祭りは地域との新たな繋がりが生まれる貴重な場であるため、来年度もとっと祭りに参加し、使用する野菜の量も増やしていきたい。

上半期では豊郷町の農家さんとの交流はほとんど無かったが、下半期ではとよさらだ栽培した野菜を買ってもらったり、農家さんから野菜栽培の技術指導をしてもらったりするなどの交流を行うことができた。これは、とよさらだのメンバーが、とよさらだプロジェクトの目的の一つである地域とのつながりをもつということを意識始めたためであると考えられる。来年度も、地域の人のつながりを大切にしていきたい。

活動を通して学んだこと

私は農業のやりがい学んだ。とよさらだの活動では作物の栽培の成功と失敗を経験した。失敗を経験することは次に成功するための基礎となり、成功したときに、より達成感を得るきっかけともなると感じた。また、農業を通じて多くの人と出会えることができ、人と関わることの良さを知った。

山添真(環境建築デザイン学科1回生)

私は活動を通して、とよさらだに関わる地域の人とのつながりの大切さを学んだ。とよさらだに入ったばかりの頃は、地域の人との交流などは全然考えていなかった。しかし、野菜の栽培技術を教えてもらうなど交流が徐々に生まれてきた。来年度も、地域とのつながりを大切にしていきたい。

神野高志(生物資源管理学科1回生)

私は、自分たちで野菜を育てる楽しさを学んだ。自分たちの力で畑を耕し、畝を作り種をまく。そして、育った作物を収穫する。もちろん、失敗することもあるが、その分成功した時の喜びも大きい。また、周りの農家さんもいろいろ気にかけてくれ、親切にいただいた。私は、充実した時を経験できたと思っている。

久岡知輝(環境生態学科1回生)

地域からのコメント (抜粋)

エコファーマー 森久仁彦さん

とよさらだの活動に関して期待をしていましたが、26年度前半は、相談や報告、連絡も殆どなく、全くやる気がみられませんでした。後半、代表が1回生に交代となり、頻繁に連絡や相談をされる様になり期待がもたれると思います。更なるやる気と根気で頑張ってくださいと思います。

豊郷町役場産業振興課 課長 土田祐司さん

とよさらだプロジェクトさんの2014年度の活動は、豊郷町にとっては大きな効果があったと思います。町が催す数々のイベント等ご協力賜り、また町内農家の農業についての参画、町の特産物のとよ坊かぼちゃん生産等々、大変活躍され、行政と農家にとって心強い思いをさせていただきました。

指導教員より (抜粋) 環境科学部 増田佳昭

とよさらだプロジェクトも年数を重ねてきているが、その年度によって活動内容にも精粗があるようである。残念ながら、今年度は、必ずしも充実した活動が出来た年ではなかったようである。象徴的なのが、苦労して豊郷町特産品として栽培した坊ちゃんカボチャが、連絡ミスから倉庫内で腐ってしまったことである。日常的にメンバーが集まる活動が出来ていなかったこと、メンバー同士のコミュニケーションが不足がちであったことなどが理由と考えられる。また、活動に必要な十分な予算確保が行われていなかったことも、活動の停滞の原因となったようだ。また、地元農家の森さんは、とよさらだの活動を見守ってくれているが、森さんとの連携も不十分だった。

しかし、本年度後半以降は、1回生メンバーの参加もあって、再度計画的な活動に取り組みだしているの、次年度の活動が楽しみである。本年度報告書の最後に書かれている来年度方針には、意欲的で計画的な活動内容が書かれており、それに沿っての活動の充実が期待される。たんに野菜やお米を栽培するだけでなく、それらを流通や消費に結びつけることについてもしっかりと勉強することを期待したい。

DELIVERABLE 成果物/制作物



豊郷産米販売キャンペーン ポスター (大学生協で販売)

08 たのうらまちづくりプロジェクト



復興まちづくりから継続的な交流活動

東日本大震災の被害を受け、未だソフト・ハードの両方面での支援を必要としている田の浦にて、現地の方々との交流イベントを開催し、ソフト面での復興に寄与するとともに、全国からイベント参加者を募り田の浦の「ファン」を増やしていく。

TEAM DATA

チーム名：田の浦ファンクラブ学生サポートチーム
代表者：吉田大樹（環境科学部）
メンバー数：12名
指導教員：鶴飼修（全学共通教育推進機構）
活動場所：学内、宮城県南三陸町歌津地区田の浦
関係団体：NPO 法人田の浦ファンクラブ
近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

- (1) 田の浦における定期的小規模交流イベント開催
★見出し写真：ホヤビザパーティー (05/24)

- (2) 田の浦における大規模交流イベント開催



キャンドルナイト (03/11)

- (3) 滋賀県内での防災意識啓発活動

- (4) 田の浦ファンクラブ事務局活動の支援



ワカメパッキング作業 (05/25)

- (5) 定例ミーティングの開催

1年の活動まとめ・考察(成果と課題) (抜粋)

まず、1年間の活動を通して田の浦の方々との交流をより深めることができたと感じるとともに、自分たち自身が成長することができた実感している。例えば、昨年度の活動では「自分たちは現地の方々と何がしたいのか？現地の方々はどうなってほしいのか？」ということ深く考えないまま活動を続けていた面があり、プロジェクトの終着点も見えないまま現地の方々に関わっていた。しかし今年度は、現地の方々のニーズに答える形でイベントを企画し、「現地の方々の手だけでイベントが開催できるようにする」という終着点も見えつつあった。このように活動の目的意義をはっきりとさせたと同時に、自分たちの作業を1年スパンで見つめ直し、しっかり役割分担して進めることができた点から、成長したと実感するに至った。

しかし、NPO 法人田の浦ファンクラブという団体の活動をサポートする際に、学生という身分からあまり込み入った作業までは手に負えないという課題もあった。例えば、「各イベントでの抽選会の景品を集める」という作業一つとっても、「学生サポートチーム」の名前だけでは景品の集まりは期待できるものではなかった。これまで滋賀県立大学の先輩方を初めとする多くの方々が、田の浦の方々や滋賀の田の浦ファンの方々とながらぎを作ってくださっているからこそ、NPO 法人田の浦ファンクラブとして田の浦の復興まちづくり活動を行うことができることを改めて感じた。

見えつつあったプロジェクトの終着点への到達度としては、「本プロジェクトの働きかけがあるからこそイベントが継続している」現状があるため、達成なされていないというのが現時点での見解である。しかし、現地の方々から「滋賀県から来てくれる学生たちに、まだイベントを続けてほしい」という声も挙がっているため、復興支援としての本プロジェクトの活動を現地の方々のニーズとどう擦り合わせていくかが今後の課題として挙げられる。

活動を通して学んだこと

私が学生サポートチームに入って一番感じているのは、実際に自分の目で被災地の現状を見て良かったということです。震災から四年が経って、まだ多くの東北の方々が支えを必要としている中で、私が田の浦の方々に意味のあることをできているのが悩みながらも、少しでも力になればと願っています。

小川夢(国際コミュニケーション学科1回生)

私は学生サポートチームでの活動を通して、本当の意味での復興とは何かを考えることができました。震災から四年が経ち少しずつ街の姿も変わりつつある中、震災の記憶を風化させず、現地の方々と交流し、自立を支援することが今私たちに求められているのだと気がきました。

稲岡幹大(国際コミュニケーション学科1回生)

活動を通して、私は「ボランティアをさせてもらう」という気持ちについて考えることができました。地域に対して何かを行うということは私個人だけでできることではなく、その地域の方々の協力があって初めてできることだと気がきました。これからも感謝の気持ちを忘れず活動していきたいです。

小田梨都子(環境政策計画学科2回生)

地域からのコメント

NPO 法人田の浦ファンクラブ代表理事 佐藤久次さん

みんな、何回も来てくれてありがとう。海の運動会は本当に盛り上がったし、来年の夏もまた是非来てもらって、一緒に楽しみましょう。また初めて来た人も、これからも気楽に来て欲しい。

今の時期(3月訪問時)はワカメしか獲れないけど、夏になればウニも、ホタテもいっぱい獲れるから、海の幸を楽しみに是非また来てほしい。本当にみんな、ありがとう。私が代表として言っているが、皆そう思っているから。是非また来てちょうだい。

指導教員より (抜粋) 全学共通教育推進機構 鷓飼修

震災から4年間が過ぎ、現地田の浦の住民の方々の状況も変化しつつある。漁港の復旧はほぼ終了し、地域の方々にも気持ちにゆとりが生まれているように感じる。イベント開催の際にも、積極的に手伝いただけの方も徐々にではあるが増えてきた。そうした状況からも、これまでの継続的な復興まちづくり支援活動の成果が現れつつある。

本年度の学生サポートチームの活動は、先年度のメンバーが継続的に携わったこともあり、反省点を踏まえた活動を実施する事ができた。イベントの開催においても、「なぜこのイベントを行うのか」、「何がゴールなのか」をある程度自覚しつつ、活動に取り組むことができていたように思う。現地の方々とつながりも深まり、定期的なイベントは活動の目標でもある現地の「祭」的なイベントとなりつつある。

課題としては、次年度以降の組織体制が脆弱な点であろう。新たなメンバーの獲得や体制整備のためには、活動自体の広報を自己満足で終わるのではなく、在学生や他大学の学生向けにもっとアピールすることが必要であろう。田の浦のまちづくりはまさにこれからであり、現地の人々にバトンを渡すまではあと2年は必要である。この活動は、内外から高く評価されている活動であり、そのことにもっと自信をもって、多くの学生を巻き込んでいって欲しい。

DELIVERABLE 成果物/制作物



田の浦カレンダー



2014 新入生勧誘チラシ

09 信・楽・人 -shigaraki field gallery project-



信楽の隠れた良さを再発見！

信楽町長野地区、信楽焼を製造している窯元が多数ある窯元散策路と呼ばれる焼き物のまちで、改修作業や散策路の問題解決、イベントの参加、企画など、ここでしかできないことを学生自らが提案し活動している。

TEAM DATA

チーム名：信・楽・人 -shigaraki field gallery project-

代表者：町口久貴（環境科学部）

メンバー数：10名

指導教員：印南比呂志（人間文化学部）

活動場所：学内、甲賀市信楽町

関係団体：窯元散策路のWA

近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

(1) そうめん流し



ブレそうめん流し (06/14)

(2) UCC コラボ企画



企画会議 (02/01)

(3) ぶらり窯元めぐりイベントスタッフ

(4) Harmony と陶器作り体験

★見出し写真：Harmony とコラボ (08/09)

(5) 4月のイベント準備

1年の活動まとめ・考察(成果と課題)

4月は、信楽で毎年開催される「ぶらり窯元散策路めぐり」に参加した。窯元のもとで陶びずの製作をさせていただいたり、インフォメーションとしての役割ができないかどうかを模索したりした。インフォメーションの役割は思ったように果たせなかったが、今年度は本格的にインフォメーションを依頼されたので、昨年度のことを活かしつつ取り組みたいと思う。

6月には、9月のそうめん流しに向け、リハーサルとして仮に組み立てた竹を使い、実際にそうめんを流し、多くの人を呼んでそうめんを食した。そうめんの麺を中華麺やうどんにして、変わった趣向を試み、参加者が楽しめるかどうかの研究も兼ねたものである。来てもらった人達には、充分楽しんでもらえたが、9月の本番は中止になる。中止になったお知らせや、メンバー間の迅速な連絡のやり取りがうまくいかなかった。これに対しては、メンバーの連絡網を作るなどして対応した。次回このようなことがあったときは迅速に動けるようにしたい。

8月はボランティアサークルハーモニーと協同で、子どもたちと一緒に陶芸体験を開催。ハーモニー所属の学生とも知り合いになることができ、人間関係を広めるいい機会となった。

また、後期に入り落ち着き始めたころにUCCコラボ企画が本格的に始動した。まだ完全に完成してはならず、次回のプロジェクトに持ち越しとなる。メンバーの中には、商品開発や、パッケージデザインについて興味を持つ人が何人かいたので、良い勉強になった。これからもクオリティを少しずつあげながら、進めていきたい。

一昨年よりも実績は少ないが、1つ1つにメンバーがそれぞれ取り組み、かつ1つのことに集中できたので、日程が苦しくなることもなかった。次回も計画を練る時は、余裕をもちそれぞれの事業に集中して取り組みたい。

活動を通して学んだこと

昨年は窯元や地域からの認知が少なかったが今年度は沢山の方に自分達の活動に興味を持ってもらいとてもやりがいを感じました。そして、メンバー、信楽の人、大学の先生と全てに支えられていると感じられたことが一番の幸せです。

町口久貴（環境建築デザイン学科3回生）

1回生の時は、まだ信楽の地理も分かってなくて先輩方についていく形でしたが、2回生になり、信楽に向かう頻度も積み重なったこともあり、地域の人に顔を覚えてもらうことができました。今年は、ハーモニーと一緒に陶器作り体験をするなど、人間関係が広がるきっかけが多かったです。

中道千尋（生活デザイン学科2回生）

信楽のまちの1番の魅力は、信楽の陶器をつくる芸術家・職人さんが多くまちづくりに関わっている点だと私は思っている。そういった方達のまちづくりに参加させていただくことは、ものづくりやデザインに興味がある学生にとってはとても刺激になった。

今村奈美（環境建築デザイン学科2回生）

地域からのコメント（抜粋）

株式会社谷寛窯代表 谷井篤さん

弊社谷寛窯では、UCC 滋賀工場の見学に来られるお客様用のグッズとして納める為の商品開発を目出している折、コーヒーの豆粕やそれを焼いて出来たコーヒー灰を、信楽焼の釉薬の材料の一つとして、粘土に混ぜて新しい素材の開発が出来ないか研究を進めていました。商品のサンプルが出来てきた頃、信楽人にも商品化のアイデアを出して貰ったり、UCC 滋賀工場の現場視察にも参加しました。開発した商品群のタイトルを決めるときには、還暦を過ぎた私と、学生の皆さんの感覚の違いがハッキリと出てしまい、中々意気投合する事が出来なかった事が一番の印象に残っています。幾度も時間をかけて、「熱」に共通の意味を見出し、「NETSU」というタイトルが誕生いたしました。それから現在はビジネスとしての具体的なパッケージデザインやポスター等を担当して関わって貰っております。これからも、信楽を愛する「信楽人」のメンバーの皆さんと、信楽のまちづくりと一緒に考え作り上げていけたらと切に願っております。

指導教員より

人間文化学部 印南比呂志

信楽人の活動は、これまで8年間、古民家改修による拠点づくり、環境整備イベント企画、参加支援など、公共的なまちづくり活動を主に行ってきた。今年度は、伝統的な地域産業と大手企業との商品開発などへの取り組みも試みられた。さまざまな研究領域の学生が参加しているこのプロジェクトは、ものづくりだけでなく、ハードからソフトまで網羅した視点で行われている。そしてこれまで紡いできた地域の人脈がこのプロジェクトの宝となっている。新入生の参加も多く、現役学生から地元信楽で社会人となった卒業生までがつながって活動している希有なプロジェクトである。先輩後輩という学生視点で地域にぶつかっていくことは多くの問題も生じるだろう。今年度、活動中に不幸な事故が起きたことは、これからの活動への教訓ともしなければならぬ。そしてさまざまなリスクをイメージできる力と活動の志を後輩へ伝えていって欲しい。

DELIVERABLE

成果物／制作物



UCC コラボ企画 UCC お土産商品



そうめん流しポスター



登り窯メンテナンス



エコでスローな夜を

私たちは、主にお寺から頂いた廃棄蠟燭でリサイクルキャンドルを作り、地域でキャンドルナイト、キャンドル作り教室、キャンドル販売を行い、エコでスローな夜を広めようと活動しています。

TEAM DATA

チーム名：あかりんちゅ
 代表者：吉田佳央里（人間文化学部）
 メンバー数：25名
 指導教員：近藤隆二郎（環境科学部）
 活動場所：学内、彦根市内
 関係団体：ひこねキャンドルナイト実行委員会
 近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

(1) 湖風祭キャンドルナイト



湖風夏祭 (06/14)

(2) 幅広い地域でのキャンドルナイト（能登川、高宮、大垣、豊郷、八幡掘祭）

★見出し写真：高宮キャンドルナイト (10/25)

(3) さくら、ひまわりキャンドル制作

(4) キャンドル製造委託

(5) とよさとミツマルシェ



キャンドル作り教室 (10/26)

(6) 三方よしエコフェア

1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年は、これまでの活動が認められ、滋賀県内だけでなく岐阜県でもキャンドルナイトを行うなど、多くのイベントを行うことができた1年であった。

また、新たに以下のような取り組みを行うことができた。第一に、あかりんちゅ誕生のきっかけとなったひこねキャンドルナイトに使用されるキャンドルが、廃棄蠟燭からできたキャンドルになったことである。第二に、紙芝居や活動紹介パネルを制作し、キャンドル教室において小学生の子どもたちにもわかりやすくあかりんちゅの活動を説明することができたことである。第三に、二週間に一回の定期ミーティングを行うことで、メンバー全員がイベントのスケジュールを把握し、また活動場所の確保が困難な中で製造日を早く決めることによって、キャンドルナイト用のキャンドルを計画的に作るようになることができたように心がけた。

しかし、申請時の計画では季節ごとに商品をつくって販売しようとする案を出したが、実現させることができなかった。商品販売はあかりんちゅの存在、キャンドルの魅力を伝えるためにも有効な手段であるが、今年は多くのイベントで精一杯となってしまう、両立させることができなかった。

今後は達成できなかった申請時の計画を引き続き、実現させるために活動したい。今年度は活動の計画が季節単位の大まかなものになってしまったため、事前にどの時期にどのイベント、商品製造をするのか細かくスケジュールを立てる必要がある。今年度は、依頼をうけてその都度対応する形で計画を立てていたが、もっとあかりんちゅが主体となって地域でキャンドルナイトを行う機会を計画に入れていくこともできればよかった。例えば今まで依頼をいただいたことのある地域の方や団体にあかりんちゅから声をかけてイベントの提案を行い、地域の方、依頼者の方と一度で終わる関係ではなく、長い深い関係が築ければと思う。

活動を通して学んだこと

昨年度より多くのイベントを行うことができ、忙しい部分もあったが他団体や企業の方、地域の方と関わりを持って、よい経験になったと思う。自分たちの活動だけでなく、ほかの団体の活動を知ることができ、刺激になり私たち団体もよりよくしていくためにもっと考えていくことがあると感じた。

金澤優佳 (生活栄養学科2回生)

一回生の頃はただ先輩の指示に従うだけでしたが、二回生になり、少しずつ主体的に動くようになりました。それに伴って、あかりんちゅが抱える問題点や課題も見えるようになりました。2015年度は本年度の反省を生かしつつ、新しいことにも挑戦したいと思います。

新井那莉 (環境生態学科2回生)

あかりんちゅでの活動を通して自分が成長したと感じたことは、地域の方々との出会いを楽しめるようになったということだった。湖風祭では子どもが私たちの活動を手伝ってくれて楽しかった、ということを感じられて自分の成長を実感できた。

西山浩史 (環境生態学科1回生)

活動を通して学んだことは、スローライフの大切さです。普段は何かと忙しく、ゆっくりする時間があまりないのですが、キャンドルナイトを行っている時は、見に来てくださった皆さんがリラックスしていて、のんびりとした時間が流れ、とてもいい雰囲気を感じました。私も心が温かくなりました。

土田侑奈 (生活栄養学科1回生)

地域からのコメント

ひこねキャンドルナイト実行委員会 中村明夫さん

彦根キャンドルナイトとは、平成19年彦根城を中心として開催した国宝彦根城築城400年祭で実施されました。1回目は平成18年大晦日にカウントダウンイベントとして、2万灯のキャンドルが灯りました。当初は彦根観光協会が主体となり開催していましたが、平成20年より彦根キャンドルナイト実行委員会によって実施しています。あかりんちゅが参加したのは、このときから当初はただ単にキャンドルを並べ、あかりを灯すだけでしたが、翌年より自らの申し出により各テーマを設定し、描く絵をデザインし、光が織りなす幻想的な世界を作り出してくれました。このことにより彦根キャンドルナイトは、他のイベントとは違うイベントとして育ってきました。また、どのように設置すれば効果的か、視覚から得られる光により人がどのように感じられるか、といった学生ならではの研究を行い、イベントに反映してくれました。今後もより素晴らしいキャンドルナイトを実施してくれるものと期待しております。

指導教員より (抜粋) 環境科学部 近藤隆二郎

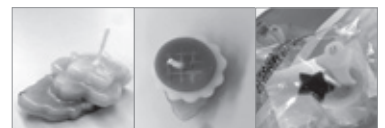
あかりんちゅの強みは、活動のわかりやすさではないかと思えます。キャンドルナイトの美しさはひと目見ただけで心を奪われます。LED照明が蔓延してきた中では、この本物の火の頼りなさでも自然と燃え輝く様子はやはり他には替えられないものです。また、この火にはものがたりがあります。残燭をいただいて、そこから再生した火なのです。

今年度の活動で、もっとも印象に残るのは、ひこねキャンドルナイトで使用するすべてのキャンドルを再生キャンドル(グリーンキャンドル)にできたことでしょう。もともとあかりんちゅ結成のきっかけがこのひこねキャンドルナイトへの参加であったのですが、そのときの疑問が発端となり、6年をかけて疑問を解決してきたとも言えます。残念ながら当日悪天候により実施できなかったのですが、次回に使われるべく時を待っています。この流れが続いていく、広がっていくと良いでしょう。広報や伝える情報などの工夫、活動の記録まとめも大事でしょう。

DELIVERABLE 成果物/制作物



湖風夏祭/湖風祭ポスター



キャンドル (さくら、ひまわり、ハロウィン)

<その他成果物>

紙芝居

11 木興プロジェクト



ものづくりによる震災復興支援

東日本大震災を受けて、滋賀県立大学の建築デザイン、生活デザインの学生による震災復興プロジェクト。建築・デザインを学ぶ私たちに何ができるのか、何かしなければという思いをきっかけに、ものづくりによる復興支援を目的としている。

TEAM DATA

チーム名：木興プロジェクト

代表者：藤澤泰平（環境科学研究科）

メンバー数：25名

指導教員：ヒメネス・J・R（環境科学部）

活動場所：宮城県南三陸町歌津地区田の浦

関係団体：NPO 法人田の浦ファンクラブ

近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

- (1) 田の浦定期訪問
- (2) 玉川小学校カブトムシ小屋の改修
- (3) 仏の祠の制作
- (4) サマースクール
★見出し写真：夏季制作活動（09/17）



パーゴラ完成（09/26）

- (5) 番屋の移築
- (6) 道具講習
- (7) 玉川小学校 "いのちの学習"
- (8) 地元学入門発表
- (9) 湖風祭出展
- (10) 海の運動会参加
- (11) 311 キャンドルナイト参加

1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

ものづくりを通じた復興支援を目的として昨年まで活動を行ってきたが、被災地では嵩上げ工事や防潮堤の建設など、ハードの復興が目に見える形になってきました。少しずつですが、変化している被災地において、私たちの活動のあり方も変化を迎える必要があると考え、この1年の活動がスタートしました。まずこれまでのものづくりに一区切りをつけること。これは現在出ている要望に答え、次の段階に進んでいくため、これまでの活動を整理し、完成を宣言しなくてはならないと考え、田の浦交流センターの水周り工事や家具の製作、雨樋をつけることなどを行いました。制作後、現地の方々に使いやすくなったと聞いていただきました。しかし、今何が被災地に必要なのか、外側の人間として提案ができなかったことが課題として上げられます。また、制作においても、段取り不足が原因となり、現地の方々に無理をさせてしまい、ご迷惑をお掛けしてしまいました。

滋賀県における活動としては、玉川小学校での防災学習への参加やネットワークを生かして上丹生の方が田の浦を訪れることにもなった。これまで現地で経験してきたことやネットワークで東日本大震災のことを発信共有していくことができた。しかし、メンバーの中でも共有し切れていない部分があり、今後もこれまで培った経験をアウトプットしていく必要があると感じた。

活動を通して学んだこと

この1年無理をして通ったこともあった。しかし、だからこそ見えた滋賀とは違う被災地の声や現状、まちづくりの問題があった。そして地域の協力や田の浦の方々のエネルギーを感じることができた。

藤澤泰平(環境科学研究科環境計画学専攻1回生)

建てることの意義。震災から4年、田の浦では高台移転や防潮堤などの建設が始まっており、建てるという面で学生にできることは限られてきた。それでも建てるということは、建てる行為や、出来上がったモノ自体に地域の方々と学生の想いが詰まっていることを強く感じた。

半海大志郎(環境科学研究科環境計画学専攻1回生)

何かが起きてすぐに反応できたわけではなく、自分なりの機会では2014年であって、そこでは既に事態は進んでいて、自分の想像とは違った状況があった。自分たちの活動は単純にそこを良くするものであると信じた。活動をした地がどのように変遷するか看視し続けることが本当の活動ではないだろうか。

北口智貴(環境建築デザイン学科4回生)

地域からのコメント

田の浦契約会会長 佐藤久次さん

(番屋移築に際して)これであと何十年も使える。

交通事情もあってなかなか田の浦に来るのは難しくなっているが来てくれるのが嬉しい。おいしいものが獲れる夏にでもまた来て。

イベントに参加してくれたおばちゃん

ありがとう。きれいになってよかった。

(センター前のベンチ)座るところができてよかった。

田の浦ファンクラブ 菅野豊さん

学生たちが行っている活動なので人が入れ替わって段々と人が来なくなるのは承知しているが、社会人になっても一度でもいいから来てくれたら嬉しい。

指導教員より

環境科学部 ヒメネス・J・R

2014年度は、田の浦のコミュニティと滋賀県立大学とが関わって4年目となる。

田の浦交流センターの建物は2年前に設計、施工された。2013年度に、建物の主要なスペースは、より多くの人々が集まることができるように拡張されて、屋外の寒さなどから保護するために整備された。今年のプロジェクツの目標は建物の使い勝手を良くすることに置かれ、トイレとつながる渡り廊下の建設や、雨樋の取り付けが行われた。

1ヶ月間、25人の学生は田の浦のコミュニティとの間で、与えることと受けることという難しい関係を、経験しながら構築してきた。もし私達がこの問題に気づかず、規模を最適にすることを学ばなければ、何が起きているのか、なぜ、何のためかを理解せずに、失望のまま終えたかもしれない。

4年間の成果は、100人を超える学生と田の浦のコミュニティが持つ記憶と経験という、非常に大きなものを残している。

DELIVERABLE

成果物/制作物



番屋



ベンチ

<その他成果物>

田の浦交流センター増築
カブトムシ小屋
祠
パーゴラ

12 かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-



地域よし、学生よし、古民家よし

彦根市上岡部町にある古民家を舞台に、「地域よし×学生よし×家主よし」の三方よしの古民家活用プロジェクトを展開する。古民家を地域交流の場、学生の学びの場として活用するため、改修作業、畑作り、交流イベントなど様々な活動を行っている。

TEAM DATA

チーム名：かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-

代表者：石森結衣（環境科学部）

メンバー数：30名

指導教員：林幸司（環境科学部）

活動場所：彦根市上岡部町

関係団体：上岡部町自治会、NPO 法人環人ネット

近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

- 1) 古民家改修事業
★見出し写真：離れの部屋大改修（09/18）

- 2) イベント開催事業



ピザパーティ 的当て（06/21）

- 3) ひょうたん作り



ひょうたんの絵付け教室（10/18）

- 4) 地域行事への参加

- 5) 畑づくり・野菜栽培

1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

「人の繋がりに感謝した。人が人を呼んでくれるということを実感できた。」という年であった。

今年度は初めて挑戦したことが多く、ひょうたん作りもそのうちの1つである。ひょうたんを教えてくださいと田中さんには、ひょうたん作りや絵つけの指導から、イベントに地域の方々と一緒に来てくださったりと本当にお世話になり、人との繋がりの大切さを感じた。また、今年で3年目のプロジェクトになるが、徐々に地域の方の認知度も上がってきたとようやく実感できた。町内で会う方々にも、「ああ県立大学の学生さんか。頑張ってるね。」と声をかけてもらえるようになってきた。去年は子ども向けイベントを開催しても地域の方に中々で参加いただけないという状況があったが、今年度は大人にも楽しんでもらえるような企画と子ども向けの企画を考えてイベントを開催した。その考案が奏したのか町内でも話題となり、地域の方の参加も増えた。大人向けに、と考えたお茶会では今までかみおかべSB（古民家）に訪れたことのない方も来てくださったり、と嬉しいことが続いた。

課題点としては私たち学生が十分に地域の人と話し合う姿勢になっていないことが挙げられる。イベントで地域の方が来てくださったのにあまり話をする事ができない、というメンバーもいた。地域の方が参加しやすい状況を作るにはイベント自体が楽しいことと共に、チームのメンバーと話すことが楽しいと感じてもらうことも重要である。今後の活動では班ごとに役割を決め、責任を持って取り組むことになる。個々に動くのではなくチームで動けるように注意したい。また地域の方との繋がり、改修でお世話になっている方との繋がり、イベントに来てくださる方との繋がりを大切にしていきたい。

活動を通して学んだこと

今年度は、新たに瓢箪の栽培を始めたことで地域の方と深く関わることができました。まずは、わたしたちから外に出なければ地域の人とつながりが生まれなかったことを学びました。また今年度は、イベントのリピーターの定着が見られ、嬉しかったです。今後も繋がりを大切に活動していきたいです。

山本千晶 (地域文化学科2回生)

かみおかへの活動を通して、古民家活用の可能性や地域交流の楽しさと大切さについて知ることができました。同時に、古民家を地域交流の場としてイベント活動をするの難しさも知りました。今後も改修やイベントを行いつつ、かみおかへがより良い地域交流の場となるように取り組みたいと思います。

池田菜摘 (地域文化学科2回生)

活動を通じて、地域活性化とは何か、活性化した地域とはどのような状態なのかについて深く考えるようになった。また、地域の人や、同じような活動をしている人たちなど様々な人との出会いがあり、いろいろな考え方を知ることができ、自分なりの地域についての考え方も定まってきた。

梶原諒 (環境政策・計画学科1回生)

地域からのコメント

上岡部町自治会長 大西省三さん

この一年、「かみおかへ古民家活用計画ー SLEEPING BEAUTY ー」の催しのお茶会に参加させていただき、「県立大」がぐっと身近な存在になった感じがしています。上岡部町民も若者が町内にいてくれることで心強く感じておられる方が多いです。また、本年度は「ひょうたん」作りに積極的に取り組まれ立派な作品も見せていただきました。地域に溶け込み活動される姿勢は素晴らしいことだと感じています。今後益々地域に密着すると同時に新しい地域おこしの風を期待しています。

指導教員より (抜粋)

環境科学部 林幸司

本年度はメンバーが増えたことと、ある程度建物の改修が進んで居住者第1号が現れたことにより、活動がしやすくなり、概ね当初の計画通り事業を進めることができました。また、事業の内容もこれまでの建物の改修作業と地域の方向けのイベントに加え、伝統野菜と瓢箪の栽培、工芸瓢箪の制作などに広がって厚みが増し、自然と共生しながらの生活の知恵や農業技術、工芸技術の理解が進んだことが評価できるでしょう。また、敷地内にタヌキが住んでいたことにより、害獣駆除と野生動物との共生の問題についても考える機会を得ました。

コミュニティを大事にし、伝統的、文化的な価値を重んじる、自然共生型社会のライフスタイルは、地域の自立と自律、低環境負荷の代わりに、コミュニティのルールに従ったり、四季に合わせた生活をしなければならぬなど、不便な側面もあります。こうした社会の姿は、国が先導するような、大規模な先端技術に支えられる「高度技術型産業」の利便性・快適性を追及する社会と対峙するものですが、どちらも持続可能な社会の姿です。このチームは、幸いなことにメンバーの所属学科が多岐にわたりますので、様々な側面から自然共生型のライフスタイルの可能性についてさらに検討しながら次年度の活動を計画して下さい。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



ひょうたん



イベントチラシ (上:かみおかへお茶会)

<その他成果物>

離れの壁、廊下の壁、台所の照明
かみおかへ新聞 (地域の方向け)
かみおかへパネル

13 地域博物館プロジェクト



文化財を救え！我ら学生学芸員！

民具や古文書、お祭りなど、地域には多くの文化財がある。“地域文化財”や地域の歴史・文化などを住民の方々とともに調べ、“地域博物館”をつくりあげていくことで地域の魅力の再発見をお手伝いする。

TEAM DATA

チーム名：スチューデント・キュレーターズ

代表者：渡邊文乃（人間文化学部）

メンバー数：14名

指導教員：市川秀之、武田俊輔、東幸代（人間文化学部）

活動場所：高島市、長浜市、守山市、米原市、彦根市

関係団体：白谷荘歴史民俗博物館

近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

- (1) 白谷荘歴史民俗博物館調査・展示事業
★見出し写真：白谷荘古文書調査 (11/22)



白谷荘歴史民俗博物館収蔵庫 (07/20)

- (2) 下之郷遺跡公園各種活動事業



下之郷遺跡まつり 2014 (11/16)

- (3) 奥伊吹調査事業
- (4) 長浜曳山まつり各種活動事業
- (5) 体験型地域発見ツアー事業

1年の活動まとめ・考察(成果と課題)

今年度は、「奥伊吹調査事業」と「体験型地域発見ツアー事業」という、2つの新たな事業を展開することができた。特に後者は、以前から課題となっていた本プロジェクト自ら行うイベントの開催を実現することができ、博物館協議会との連携や歴史・文化の説明など良い経験を積むことができた。

7月には、地域博物館プロジェクト創立当初から取り組んできた白谷荘歴史民俗博物館での活動や、昨年度の近江八幡市のヨシ博物館での文化財レスキューなどが評価され、滋賀県博物館協議会から表彰を受けた。これは、本プロジェクトの活動が地域の方や、連携先の博物館の方にも認められてきているということができだろう。

しかし、「白谷荘歴史民俗博物館事業」や「下之郷遺跡まつり関連事業」など以前から続く活動については、作業の進展やイベント参加率の増加はあったものの、大きな変化や新たな試みを実施するまでには至らなかった。その点では、発展というよりは維持・継続の年であったように思う。

新たな試みを行うためには人手が必要である。しかし、現在はメンバーの代替わりが行われたばかりで、1、2回生が中心のため、作業効率も悪いのが現状である。また、そもそもの活動メンバーが少ないことや、1回生の活動への参加率が低いことも課題である。今後はメンバーの確保と、メンバー間の情報共有や上回生から下回生への知識伝達による各メンバーの活動の質の向上を目標に、活動を行っていききたい。

活動を通して学んだこと

今年は活動において、楽座のメンバーや大学の先生方だけではなく、大学外の方と関わる機会が今までよりも増えました。わたし自身そういった場にまだまだ不慣れなことも多いのですが、少しずつ慣れてきたように思います。今後も楽座の活動を通して色々な面で成長していきたいです。

上田睦美 (地域文化学科2回生)

奥伊吹や白谷での民具調査、教科書の調査を行いました。そのことで、地域の特徴や民具の名称などを知ることができました。さらに、調査中に地域の人たちと交流したり、史料収集をした人たちの思いを知ることができ、地域で博物館をつくる意義について考えることができました。

浜奈緒子 (地域文化学科2回生)

奥伊吹の2度目の調査に参加しました。白谷で古文書の調査はしたことはありましたが、民具を調査するのは初めてでした。しかし、地域の方の話を聞いたり近くの資料館で民具展示を見学したりと大変勉強になりました。

廣兼 あや (地域文化学科1回生)

白谷荘歴史民俗博物館での調査や湖風祭でのパネル展示に参加し、調査の必要性や学んだことを他の人に伝える難しさを実感しました。湖風祭では、立て看板の作成や来客への説明などを担当し、チームの中で自分の役割を果たせたのが良かったです。

谷口 七海 (地域文化学科1回生)

地域からのコメント

白谷荘民俗博物館 川島光男さん

膨大な古文書・教科書・民具等を前にもどのようにして維持をしたらよいかと困っていたところ、大勢の学生さん・先生方に協力していただき非常にありがたく思っております。夏は暑い炎天下の中で汗と埃とすすで真っ黒になりながら作業、寒い雪の降りしきる中で手を真っ赤にして寒さに震えながら作業を進めてくださいました。

このような活動が周りの皆さんに当館について、より関心を持っていただくことに繋がり、単に民具等の整理・展示・建物の維持保全だけでなく、地域のコミュニティー・観光への広がり・地域文化の保全へと広がっております。学生の皆さん・先生方の指導協力のもと、湖西地域の博物館として、より地域にねぎしたしたものにして、忘れ去られようとしている地域文化を守り、さらに地域の交流の場になれるようになればと考えています。

指導教員より (抜粋)

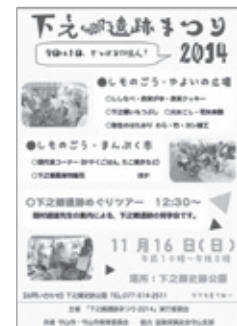
人間文化学部 市川秀之

本年度の地域博物館プロジェクトの活動は当初予定していたものに加えて、滋賀県博物館協議会と連携した「体験型地域発見ツアー事業」も実施し、充実した一年となった。ことに「白谷荘歴史民俗博物館事業」においては、数年来継続してきた教科書コレクションの整理がほぼ完了し、現在は目録の最終点検を行っている。全国的にも貴重なコレクションを楽座が主体となって整理したことの意義は大きいと感じている。「体験型地域発見ツアー」ではコースの企画から担当し、留学生を含めた他大学の学生などとも交流している。行政が主体になるだけでは型どおりになりがちなこういったイベントに楽座がかかわることによってまた違った広がりが出てきていることも評価できるだろう。

ただ活動の活発さとは裏腹に、参加する学生が限定され、ことに1回生などの参加が少なかったことには課題も残る。ことに文化財の調査などでは継続性や技術的・知識的な伝承が重要であり、今後は下の学年の参加をよりすすめていく必要があるだろう。またさらにネットワークを広げ活動も多様化することを期待している。

DELIVERABLE

成果物／制作物



下之郷遺跡まつり 2014 チラシ兼ポスター



湖風祭パネル展示 (4種)

<その他成果物>

整理済収蔵教科書

体験型地域発見ツアー レジュメ/クイズ

14 政所茶レン茶[®] ー



政所茶に想いを寄せて…

東近江市政所町にて、お茶づくりを通して地域活性化にチャレンジする。本学の授業「地域再生システム(特)論」をきっかけに結成された。「お茶づくり」、「集落向け情報紙の発行」、「地域イベントの開催」を3本軸に活動している。

TEAM DATA

チーム名：政所茶レン茶[®] ー
代表者：谷田麻綾（人間文化学部）
メンバー数：12名
指導教員：上田洋平（全学共通教育推進機構）
活動場所：東近江市政所町
関係団体：東近江市役所
近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

(1) お茶づくり

★見出し写真：お茶摘み風景 (05/31-06/01)



茶袋詰め (07/06)

(2) 情報誌「茶レン茶[®] ーナル」の発行

(3) イベント(ワークショップ)の開催

(4) 他所のイベントへの参加



奥永源寺物産展 (05/03)

(5) 勉強会

(6) パンフレット作成

(7) "飛び出しまんちゃん"看板の作成

1年の活動まとめ・考察(成果と課題)

今年度は、昨年度同様に茶レン茶[®] ーの土台づくりに力を入れるような一年間だった。特別大きな事を為し遂げたわけではない。しかし、全てが初めてのなか手探り状態で実践してきた活動発足当初の作業を、今年は一一つ確認し直すことができた。

代替わりの時期に入る。発足メンバーが徐々に活動から離れていく中、茶レン茶[®] ーの活動形態も次に引き継ぐメンバーたちの個性が引き出されるようなものに変化していくべきだ。やりたいと思うことにはもっと積極的に動きたい、逆にやりづらい事に対してはどんどん手直ししていく。今年行った確認作業を来年度からの活動に活かしていきたい。

茶レン茶[®] ーの活動は、他団体に比べると社会人チームとの連携が強いかもしれない。しかし、最近では連携というより社会人チームに引っ張られるような格好になっている。負けじと学生たちの力をもっと発揮していきたい。思いついたことは心に留めず、これからの活動に反映できるよう努力を惜しまないようにしたい。

活動の中に新たな挑戦を試みても、これまで築き上げてきた地域の人とのご縁は変わらず大切にしていく。というよりも、もう少し地域との距離を縮めていきたい。世代は違えども、これまでの活動からも分かるように地域の方々は私たちに対してとてもよくしてくださった。緊張しているのは私たち学生なのではないだろうか。世間話をする感覚で、もっと政所の人たちとの関係性を深められるよう心を解していきたい。

活動を通して学んだこと

この1年を全体的に振り返ると1年前とはまた違った活動ができたと感じた。特に茶摘みやイベント出展などで多くの方に来てもらったことで、それだけ用意も大変だったが、興味を持ってくれる人が増えていることを実感することができて良かった。今年も茶レン茶[®] ーらしい活動をしていけたらと思う。

白城慶子(生活栄養学科3年生)

今年度私が一番感動したことは、お茶は入れ方によって味が全然違うということだ。おいしいお茶の入れ方を習得できたのでさらにたくさんの人に政所茶を飲んでいただきたいと思うようになった。また、聞き書きという活動を知って私たちが政所の人たちにお話を聞いて伝統を受け継いでいきたい。

白石紗季(材料科学科2年生)

茶摘みやイベント出展などの活動を通じ多くの方と交流し、私の世界(考え方)は広がった。活動では外とも内とも連絡を取り合うのが大変だった。今後も政所へ行き、政所という癒しの場所が滋賀にあることを多くの人に認識してもらえよう活動したい。

苗村リサ(材料科学科2年生)

茶レン茶[®] ーに入ったのは説明を聞いて興味を持ったことがきっかけだ。それまではお茶のことや政所のこと詳しく知らなかったけれど、活動を通して政所の良さや、政所茶についての知識なども身についたと思う。政所茶の生産からPR、販売まで様々なことを行うのでとても良い経験になった。

青木雅浩(地域文化学科1年生)

地域からのコメント

政所茶農家 白木駒次さん

アメニモマケズ、カゼニモマケズ、頑張ってくださいね。

僕の拙いお茶づくりの指導をよく理解してくれて、慣れない仕事に皆で一生懸命取り組み努力してくれたことに感謝している。正直言っていっつ挫折されるか半信半疑の時もありましたが、初めて君達の摘み取った新茶が出来上がった時、皆が袋の中を覗き込み驚嘆しながらうれしさ一杯の笑顔を見せて喜んでくれた事が忘れられない。茶レン茶[®] ーの組織は、すでに政所町内は言うに及ばず奥永源寺内に知れ渡り今後の活動が大いに期待されている。4年間の学生活動の中で継続していくことはなかなか大変な事ですが、英知を結集して有名な政所茶の存続の為に未長く皆さんの力を貸して下さい。

指導教員より

全学共通教育推進機構 上田洋平

茶レン茶[®] ーも代替わりの時期である。あたらしい三役も引き続き人材にめぐまれた。創業メンバーが、いなくなるわけではないが、一線を退くことになる。新三役は先代とはまた違うリーダーシップを発揮することが求められる。

茶レン茶[®] ーとしては地域に浸透し、好意的に受け入れてもらっているが、地域と学生、お互い一人ひとり顔の見える関係を築けているか？

みんなの名前を知っているか？ みんなの名前を知ってもらっているか？ そろそろ、玄関先からちょっと上り込んで、腰を落ち着け、膝を突き合わせあるいは肩を並べて、たくさん話そう。地域の方々を、時には我々のフィールドへ、イベントへ、連れ出してみよう。そんな出来事を楽しみにしている。

地道に継続的に活動した年であった。昨年はこのプロジェクトを機縁にして2名が地域に職を得て、地域に根差して活躍している。この存在も大きかった。多様で勢いのある社会人メンバーが大勢いることもこのプロジェクトの特長であり魅力である。彼ら社会人メンバーたちを、もっと貪欲に活用するとよい。したいこと、をぶつけてみよう。彼らもそうしてきたはずである。遠慮はいらない。

DELIVERABLE

成果物/制作物



パンフレット



情報誌「政所茶レン茶一ナル」

<その他成果物>

政所茶 煎茶

政所茶 春番茶

15 たけとも一竹の会所 友の会一



たけとも…

"未来を語り合う場"子どもたちのために4年間整備・メンテナンス・イベントなどを、この海上を通して地域の方々を未来を築ける場を作り続けていき、私たちの思いとみんなの思いが形となって気仙沼の方々の心の支えになることを目指しています。

TEAM DATA

チーム名：たけとも一竹の会所 友の会一
代表者：谷口雄飛（環境科学部）
メンバー数：39名
指導教員：陶器浩一、永井拓生（環境科学部）
活動場所：湖南市、宮城県気仙沼市
関係団体：株式会社高橋工業
近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

(1) たけとも春祭り WS

(2) たけとも夏祭り WS

★見出し写真：離れの部屋大改修 (09/18)



竹の会所周辺整備 (09/17)



写真展準備 (09/20)

(3) Bamboo House2 号建設 WS

1年の活動まとめ・考察(成果と課題)

竹の会所施工から3年経ち、被災地の状況も1年目のときと大きく変わってきた。そのなかで私たちは、どのように地域と関わり、活動していくのか考えていかなければならない。その第一歩として、今年度は補修作業と周辺整備を行った。今年で施工時のメンバーがほとんど卒業となり、当時を知るメンバーがいなくなってしまう。これからのたけとものあり方として、設立当初の考えを受け継いでいくことが大切であるとする。

成果としては積極的な1回生の加入が大きいと考える。被災地の生活に興味を持っている子や震災復興の活動に興味がある子など、様々な理由で新規メンバーが集まってくれ、これからの活動に大きく貢献してくれると思う。

「竹の会所」が4年の仮設建築許可期間を満了する来年は、たけともにとって大きな年であり、これからの活動の基盤になると思う。しっかりとした活動の引き継ぎが必要だと考える。

活動を通して学んだこと

活動を通じて、津波に負けない、海とともにこれからも生きていくまちのエネルギーを肌で感じてきた。震災から4年が経ち、初期のメンバーがどんどん卒業している。私がすべきことは、このまちのエネルギーを後輩たちに伝え、引き継いでいくことだ。

成尾建治(環境科学研究科環境計画学専攻2回生)

昨年度の活動では緊張感の強い日々を過ごしたが、今回は落ち着いたスケジュールの中で、先輩たちにいろいろな話を聞きながら活動できた。震災から4年が経ち、記憶も薄れつつあるが、これまで関わってきた先輩たちの帰る場所を作ること、これからの目的のひとつとなると感じた。

千葉駿太郎(環境建築デザイン学科2回生)

春に初めて活動に参加し、地域の子もたちと祭りに関わりました。幼くして大震災を経験した子どもたちが元気に過ごしていることで、心の復興は進みつつあると感じました。その子どもたちが夏に地元の祭り「虎舞」で太鼓を打っている姿は、大きくたくましく、そして強いと感じました。

山原康弘(環境建築デザイン学科1回生)

地域からのコメント

株式会社高橋工業 代表取締役 高橋和志さん

震災から時間が経過し地域を訪れるボランティアも少なくなってきた中で、「たけとも」の学生たちは震災当初から地域の中に入って継続的に活動している事が大きな特徴だ。

お祭りに訪れる子どもたちも常連が増え、触れ合う姿が微笑ましい。竹の会所建設時の学生たちも卒業し、世代が変わったことを感じるが、皆それぞれの立場で地域の事を思っ気仙沼に来てくれている。被災地でのボランティアの役割も変化してきているが、彼らの活動は地域に根ざしたものと定着している。

震災からまもなく4年が経過し、この活動がどうなるかわからないが、無理のないやり方で交流を続けてもらいたい。

指導教員より (抜粋) 環境科学部 陶器浩一

本年度も、春の連休および夏休みに気仙沼で竹の会所や浜の会所を舞台に手作りの「お祭り」を実施した。震災当初に比べ、祭りに訪れる人は少なくなったものの、逆に何時も訪れてくれて顔なじみになっている子どもたちも多く、「今度いつ来るの?」と心待ちにしてくれている。これは、地域に根ざした活動として定着した証だと思われる。

「竹の会所」は本年9月に4年間の仮設建築許可期間が満了するが、地域の拠り所となっているのでまだ存続させて欲しいとの要望をいただいており、今後のあり方を地域の方々と話し合っゆきたいと思っている。

地域の方々にも「学生たちが来てくれると元気が出る」と仰っていたが、学生たちにとっても、実際に被災地で生活し、被災地の現状や復興の過程、地域での暮らしを学ぶことが、大きな財産となっているに違いない。

来年度は竹の会所およびたけとも活動の大きな節目となるが、被災地の復興の歩みに寄り添った、学生と子ども達の交流を考え、これからの活動を考えてゆきたい。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



記念碑

16 とよさと快蔵プロジェクト



空き古民家活用で豊郷町のまちづくり

近江商人のまち豊郷町には、空き家となった民家や蔵が点在しています。こうした町の資産に着目して、学生なりの発想で活用したり、地域イベントに参加するなど、町を盛り上げる人々たちをサポートしながら、地域を盛り上げる活動を行っています。

TEAM DATA

チーム名：とよさと快蔵プロジェクト
代表者：吉田瑛里奈（環境科学部）
メンバー数：50名
指導教員：迫田正美（環境科学部）
活動場所：犬上郡豊郷町、学内
関係団体：NPO 法人とよさとまちづくり委員会
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

(1) メンテナンス



駐輪場製作 (08/15)

(2) タルタルーガ営業、タルタルーガビアガーデン、出張タルタルーガ

(3) ミツマルシエ

(4) 八町地藏盆

(5) おとくら展示会

(6) とよさと快蔵プロジェクト 10 周年記念イベント

★見出し写真：10周年イベント年表づくり (12/27)

(7) 豊郷町のイベント参加

(8) タルタルーガ看板作成

(9) 自己紹介パンフレット作成

(10) 活動マニュアル作成

(11) 広報活動

1 年の活動まとめ・考察(成果と課題) (抜粋)

今年度の成果は、ここ数年豊郷町吉田に偏りがちだった活動の範囲が広がり直したことがまず上げられる。豊郷町観光協会や豊郷町八町の方とイベントの企画から一緒に活動する機会があり、タルタルーガも彦根のイベントに出店するなど、プロジェクトの活動が認知されてきたことが実感できた。

そして、最も大きな成果はまちづくり委員会との協力関係を取り戻せたことである。昨年まで少しずつ回復はしていったものの、まだ不安定で少し距離があった。今年度からさらに会う機会を積極的に増やし、頼る時はお互いに頼り合い、意見を言い合ったことで、信頼し合えるようになっていった。そして10周年記念イベントがさらにそれを後押しした。これまでのメンバーが揃い、今までの活動を振り返り、年表という形で初期メンバーの想いや現役メンバーの現状など、それぞれの活動を共有できた。これは現役メンバーにとっても、まちづくり委員会にとっても刺激となり、それぞれの意識が向上するきっかけになった。

少し遅れてしまった計画も、2回生へと引継ぎ、少しずつこなしていく。課題として残るのは、メンバーのモチベーションである。今の1.2回生は改修をしたいと参加したにも関わらず、あまり大きな改修作業には関わらずにいる。ただし、やみくもに改修物件を増やすことはできない。まちづくり委員会とどうしていくかしっかり話し合い、提案していく必要がある。

10年の活動を通して、全体的には安定してきたように感じる。今後はこれまでの活動に加え、私たちオリジナルの「学生が「住まう」」ことを活かし、さらにつながりの少ない町の中高生や子どもたちも巻き込んだ活動も展開していきたい。

活動を通して学んだこと

町のイベントに思っていたより参加できずに、この1年は終わってしまった印象でした。そんな中でも、話し合いの段階から参加させてもらったお化け屋敷は、町の人も参加した学生も楽しそうにしているうれしかったです。今後も豊郷町の人たちと学生自身が一緒に楽しんで活動していくことが大切だと感じました。

水木翔平（環境建築デザイン学科2回生）

とよさと快蔵プロジェクトに入って、多くの「経験」と「繋がり」ができました。いろいろ話して、考えて、計画して・・・学生のうちにしかできない、しかも快蔵でしかできない「体験」をたくさんさせていただきました。今年活動していく中で、自ら行動しないと何も起こらないこの当たり前なことに改めて気づかされました。

青島亜美（環境建築デザイン学科2回生）

豊郷にいと、まるで自分の地元にいるように感じました。豊郷の人と学生が協力して地域を盛り上げたり、学生がシェアハウスを利用させてもらったり活動は暖かい活動だと感じました。これほど地域と強いつながりのある活動はないのではないかと思います。

安保美咲（環境建築デザイン学科1回生）

自分は今年、タルタルーガで多く活動していました。その中でタルタルーガが一番、地域の人と近い距離で活動できる場所だと感じました。タルタルーガはお客さんのおかげで成り立ち、豊郷がそれにより元気になる。お互いが支えあって成り立っているんだなと思いました。

馬場孝朗（環境建築デザイン学科1回生）

地域からのコメント（抜粋）

とよさとまちづくり委員会 理事長 北川稔彦さん

今年も豊郷で多くの活動をしてくださいました。最も印象に残ったのは、10周年記念イベント「かるたでかたる」でした。それぞれの地域で活躍している卒業生も豊郷に帰ってきたというような表現で接してくれるのが、大変うれしく感じました。改めて、この関係が10年続いてきたんだなという思いです。

とよさとまちづくり委員会 副理事長 岡村博之さん

10年前にこの町に関わってくれた先輩から、現役のみんなが変わらない気持ちでこの町に関わって頂いている事は本当に凄いことだと思います。今後はこの町に残っていただける人材を、この町で活躍できる場を提供出来るよう、共に励んでいければ幸いです。

とよさとまちづくり委員会 副理事長 前田広幸さん

私達、とよさとまちづくり委員会のメンバーも20代の頃は学生と一緒に作業をやっていましたが、メンバーも40代になるとなかなか一緒に作業することが少なくなりました！今年度は学生と関わる機会が多くなってきましたので、ありがたいです。

指導教員より（抜粋）

環境科学部 迫田正美

本年度は活動開始から10年の節目の年にふさわしく、充実した活動内容であった。組織的には代表をはじめとするコアメンバーを中心に、それぞれの班にチーフとサブチーフを上級生と下級生により構成し、各活動の自主性と活動の継続性をより確実なものにする工夫がうまく機能していたと思う。また、10周年記念イベントでは、多くのOBやOGと地域の方々を交えたワークショップを通じて10年間の活動を振り返り、共有し、形に残すという実践的な取り組みとなり、将来へ向けての大きな節目となるイベントにできたと思う。

今後は本当の意味での地域の方々との協働の在り方を更に模索し、できれば行政も含めた地域一丸となった活動の一翼を担えるようなチームに成長してくれることを願う。

DELIVERABLE

成果物／制作物



タルタルーガ ポスター



ビアガーデン チラシ

<その他成果物>

ミツマルシェ ポスター／フライヤー

満ち屋紹介カード

八町地藏盆 チラシ

おとくら展示会 ポスター

10周年イベントポスター

新歓ポスター

まち歩きマップ

自己紹介 book

17 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト



モットーは無理せず楽しく！

ボランティアサークル Harmony は障がいを有する人と学生が互いに成長することを目的に、NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディーの支援活動を行っています。また活動を通じて、障がい児・者を支える地域づくりの推進も目指します。

TEAM DATA

チーム名：ボランティアサークル Harmony
代表者：池上直毅（人間文化学部）
メンバー数：30名
指導教員：竹下秀子（人間文化学部）
活動場所：学内、滋賀県内
関係団体：NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディー
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

- 1) 定例活動
★見出し写真：油絵の様子（05/17）
- 2) 陶芸体験
- 3) クリスマスコンサート



クリスマスコンサート（11/29）

- 4) カヌー体験



カヌー体験（06/07）

- 5) 茶摘み、製茶体験
- 6) 定例会議

1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

ハーモニーはすべての活動においてメロディと一緒にいるのですが、今年度は、なるべく学生が中心となって企画・連絡等を行なっていくことで、私たち学生が成長することを目標としました。

定例活動の一環のお茶会では、今年度は学生が直接お茶の先生からお茶の点て方の指導を受け、さらに、学生全員がお茶の飲み方を学ぶことでお茶会自体がスムーズに進行し、子どもたちに自信を持って教えることができるようになりました。お茶会は毎回行っているのですが、子どもたちも少しずつですが、静かに座った状態を維持することができるようになってきました。

また、定例活動やお泊まり会などで体験学習に参加をしてくださる子どもたちや保護者の方もいました。信楽での陶芸体験では、近江楽座の信楽人の方々に協力していただきました。このように今年度の活動では、ハーモニーやメロディ以外の多くの方と一緒に活動することができ、良い刺激をお互いに与え合えました。

課題としては、ハーモニーの活動中に、障がいを持った子どもとのコミュニケーションは難しいと感じ、うまく対処できていないときがありました。これは部員同士での子どもに関する情報交換が不足しているためだと考えられます。これまでのハーモニーの活動では、子どもへの対応の仕方に関して、先輩から後輩へのアドバイスが少ないように感じられます。ハーモニー内での縦のつながりを強化し、意識をより向上していくことが課題です。一方、メロディさんは学生が創意工夫して成長できるように、メロディさんからハーモニーへと関わり方に関してのアドバイスは敢えてしないようにされています。そのため、ハーモニーの学生間で障がいを持つ子どもたちとのかかわり方を試行錯誤し、共有していくことが重要です。

活動を通して学んだこと

今まで障がいをもった子どもとふれあう機会がほとんどなかったため、はじめは子どもに対してどう接すればいいのかわかりませんでした。しかし、活動を重ねるにつれて、子どもたちへの接し方や、それが子ども一人一人によって変わるのだということを知りました。

生野聖美 (人間関係学科1回生)

ハーモニーに入ったばかりの頃は、子どもたちとうまく交流できませんでした。しかし、彼らと一緒に様々な活動を楽しむことで、自然と彼らと触れ合うことができるようになり、彼らとの距離も縮まったように思います。子どもたちと楽しむことがいかに大切なことなのか実感することができました。

山本泰佑 (人間関係学科1回生)

Harmonyに入るまでは障がいをもつ子どもたちに関して僕は無関心でした。しかし、接してみると障がいをもつ子どもも普通の子どもと何ら変わらないことがわかりました。現代では障がい者を差別する人が多く見られますが、そういう人たちにも僕が感じたようなことを感じて欲しいと思い活動しています。

紅林宏祐 (人間関係学科1回生)

当初は、障がいを持った子どもたちとうまく関われるか、子どもたちを傷つけるようなことがあるのではないかと不安もありました。しかし、活動を通して子どもたちとかがわっていくうちに、普通に話し、また自分自身も活動を楽しんでいました。自分が楽しんでいれば子どもたちも楽しいのだということを知りました。

田崎里沙 (生活栄養学科1回生)

地域からのコメント (抜粋)

NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディ 田井中雅子さん

障がい児・者の余暇と就労を考える会メロディーの活動を通してハーモニーの学生さんには、大変お世話になっています。息子は、現在、特別支援学校に通う中学2年生です。診断名で言うと、重度の知的障害を伴う自閉症です。親がいなくなった後の、息子の将来が、地域とは隔離された施設での生活ではなく、地域で、あたりまえに暮らしていく将来であって欲しいと願っています。そのためにも、息子には、もっと地域で生きていく為に、いろいろな経験をし、地域で生きて行く為のルールを学んでいって欲しいと思っています。地域で生きていく練習をするには、いろいろな人に迷惑を掛けることがあります。そんな時に、理解ある言葉を掛けられる事は、家族にとっては、ほんとに励みになります。メロディーとの活動を通して、障害のある子達と関わってくれたハーモニーの学生さん達が、この経験を活かして、地域で障害のある人に会った時、臆することなく、理解ある対応をしていただき、地域で生活する障害者を地域で支える人になっていってほしいと心から願っています。

指導教員より (抜粋) 人間文化学部 竹下秀子

昨年度の活動の反省を踏まえて、ブログの更新回数を増やすなど、外部へ情報を発信する体制の整備に努め、クリスマスコンサートの際にはラジオ出演等、活動の広報に力を注いだ。各事業においてメンバー同士で助け合おうということを確認し、コアメンバー以外も運営を担うよう心がけた。結果として、昨年度よりも活動に参加する学生が増え、子ども一人に対して少なくとも学生一人が共に行動できるようになった。子どもに目を向ける機会を増やすことができたが、他方、学生全員が子どもへの適切なかかわりを身につけるにはいってなかったため、保護者の方が不安に思われるような場合も生じてしまった。このように、今年度はより多くの学生が主体的に参加することに前進があったが、そのうえで、全員が活動全体の状況を把握することや、個々の責任を果たす力量を身につける課題が浮かび上がった。引き続き、地域の方々の期待に応える努力を重ねてほしい。

DELIVERABLE

成果物/制作物



クリスマスコンサートポスター



クリスマスコンサートパンフレット



お茶の作法手順

18 おとくらプロジェクト



歴史ある高宮に新たな風を

滋賀県彦根市高宮町で、築 200 年の古民家を学生が改修してできた高宮町のコミュニティスペース「喫茶おとくら」の運営を主に地域活動への参加、イベントなどを行い、高宮の地域活性化を目的とする団体である。

TEAM DATA

チーム名：おとくらプロジェクト

代表者：金子尚志（工学部）

メンバー数：20名

指導教員：迫田正美、中西茂行（環境科学部）

活動場所：彦根市高宮町 座・楽庵「おとくら」

関係団体：高宮経友会、湖東定住ネット

近江楽座活動年度：H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25

PROJECT

実施事業

- イベント
★見出し写真：高宮スタンプラリー（10/25）

- ギャラリー



とよさと快蔵プロジェクト「満ち屋」(7月)

- 喫茶活動

- インテリア（空間整備、改善）

- 広報活動

- 高宮勉強会



高宮勉強会 (07/12)

- 研修旅行

1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度も喫茶運営を軸に活動し、インテリア班を中心におとくらの空間を改善できた。喫茶スペース空間を改善するため、ガラスコースター等の小物を作成し、来店したお客さんの過ごしやすい環境を作ることを心掛けた。しかし、今年度はメニューの改善があまりできなかった。お客さんからの意見を元にメニューを改善し、より良い喫茶づくりを進めることと、メンバー内でのシフトの偏りが今後の課題である。

今年度はおとくら5周年という記念すべき年であり、5周年に関連したイベントを多く行った。高宮勉強会では、改めて高宮について知り、おとくらプロジェクトの活動の意味を再認識することができた。スタンプラリーでは、高宮のお店に協力していただくことで、高宮内でのおとくらの知名度アップと、活動について理解してもらうことができた。キャンドルナイトでは、あかりんちゅさんや、キャンドルを置かせていただいた高宮寺とのつながりを持つことができた。5周年コンサートは、おとくらつうしんを通じた地域の方とのつながりや、口コミなどによって、多くの方に来場いただき、超満員となった。5周年関連イベントで認識した地域とのつながりは、おとくらが高宮で活動してきた「5年間」という時間のおかげであると感じた。

地域とのつながりをもつことはできたが、その分学生とのつながりの希薄さが目立った年でもあった。コンサートなどのイベントも、学生の参加者はほとんど見られない。学生と地域との交流こそが、高宮に刺激を与え、おとくらのコミュニティスペースとしての機能をもっとも発揮できるのではないかと。そのため、学生とのつながりを持つことが今後の課題である。学生に効果的な広報の手段を見つけ、若者が来る動機づけになるようなメニューを作成したい。また、なかなか学校の外で発表する機会のない学生にスペースを積極的に貸し出すことで、おとくらの貸しスペースとしての知名度をアップさせると同時に、地域の方に学生の活動を知っていただける場としたい。学生は人が変化していくため、継続的につながりを作る活動をする必要があると思われる。

活動を通して学んだこと

喫茶シフトに加えて、クリスマスに音楽系サークルのライブを行ったり、えびす祭りに参加したりしました。おとくらに入らなければ出会えなかった多くの方と関わられたことや、地域の方と対談することの楽しさなど沢山のもの得到了らせたと思います。

島津美玖(環境政策・計画学科1回生)

おとくらでの活動で最も感じたことは地域の人との密接な関わりです。だからこそ地域の方と接して話を伺う機会も多く、そうした中で「地域」だから出来ることや個人にとって身近である「地域」の重要性を実感することができました。

村尾采佳(人間関係学科1回生)

私が、この1年間を通しておとくらで学んだことは、人との関わり大切さです。おとくらで喫茶に来てくださる方々など、地域の人といろいろなお話をさせていただいて、多くのことを学ぶことが出来ました。

飯田典子(生活栄養学科1回生)

5周年記念イベントの最後のキャンドルナイトには多くの地域の方が覗きに來られてすごうれしかったです。あの瞬間はこれまでずっと大切にしてきた地域との結びつきが報われてきていると強く実感しました。

岡田章寛(電子システム工学科2回生)

地域からのコメント

おとくら家主 加藤義朗さん

今年度は、大事な節目の年でした。5周年記念事業として、おとくらスタンプラリー、高宮キャンドルナイトなど、みなさんの力で、私の夢見た「おとくら祭り」ができたことと喜んでます。

本当に、5年、早いもので、中西茂行先生と始めた嬉しがり。各年代ごとに、いい子(メンバー)に恵まれ、お節介なおっちゃん(私)に、いい経験、体験を、ありがとう。やっぱり、「継続は、力なり。」です。6代目代表に鈴木亜実さんが決まり、また、いろいろチャレンジしてくれるであろう事を、期待しています。くれぐれも、お節介なおっちゃんも、仲間に入れてください。

「高宮に新風を!」よろしく。

指導教員より

環境科学部 迫田正美

今年度は5周年にふさわしく本当にいろいろな活動を活発に展開することができた1年でした。昨年からはじめた「おとくら通信」も多くの方々への情報発信に力を発揮できましたし、「高宮あきないプロジェクト」が平成26年度滋賀県にぎわいのまちづくり総合支援事業に採択され、「高宮あきないMap」事業でのお店訪問や聞き取り調査は大変だったでしょうが、このワークショップを通じて高宮の色々な方々との交流の輪を広げることができたことも大きな収穫だったと思います。10月の5周年記念月間の活動でも、これまでに交流を培ってき、またお世話になってきた多くの方々の協力を得て、充実した体験と成果を重ねることができたことは、これまでの活動を総括し、今後の活動への大きなステップになったと思います。これまでの地道な活動があったからこそその成果だと思えます。

おとくらの活動が着実に目に見える形で広がりを作り始めていると思います。今後のさらなる展開を期待しています。

DELIVERABLE 成果物/制作物



ガラスコースター



ティッシュカバー

<その他成果物>

おとくらつうしん
イベント/ギャラリー 各種チラシ
活動紹介、メンバー募集チラシ
メンバー用名刺
ぜんざい
アイシングクッキー
オリジナルエプロン

01 フワラーエネルギー「なの・わり」

2-2 『らくざしんぶん』

チームが1年の活動をまとめた活動報告新聞です。共通トピックである①「チームのビッグニュース」②「プロジェクト紹介」③「プロジェクト自慢」④「地域の声」⑤「成果と課題」を中心に記事を作成しています。

近江楽座ホームページに、カラー版のPDF ファイルを掲載しています。ぜひご覧ください。

近江楽座 HP: <http://ohmirakuza.net/>



02 内湖における侵略的外来種駆除



07 とよさらだプロジェクト

とよさらだ新聞

米農家さんとお米作り

「とよさらだ新聞」は、とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。



とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。

年を振り返って

とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。

地域の声

とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、とよさらいふの魅力を伝えるためのプロジェクトです。

08 たのうらまちづくりプロジェクト

たのうらまちづくりプロジェクト

たのうら便り~農家から4年を遊べて~

プロジェクト紹介

農産物直売所「たのうら」の運営を支援するためのプロジェクトです。このプロジェクトは、たのうら直売所の運営を支援するためのプロジェクトです。このプロジェクトは、たのうら直売所の運営を支援するためのプロジェクトです。

活動内容	支援内容	活動内容	支援内容
プロダクト	・お米 ・お味噌 ・お漬物	プロダクト	・お米 ・お味噌 ・お漬物
プロダクト	・お米 ・お味噌 ・お漬物	プロダクト	・お米 ・お味噌 ・お漬物
プロダクト	・お米 ・お味噌 ・お漬物	プロダクト	・お米 ・お味噌 ・お漬物

たのうら便り

たのうら直売所の運営を支援するためのプロジェクトです。このプロジェクトは、たのうら直売所の運営を支援するためのプロジェクトです。このプロジェクトは、たのうら直売所の運営を支援するためのプロジェクトです。

地域の声

たのうら直売所の運営を支援するためのプロジェクトです。このプロジェクトは、たのうら直売所の運営を支援するためのプロジェクトです。このプロジェクトは、たのうら直売所の運営を支援するためのプロジェクトです。

09 信・楽・人-shigaraki field gallery project-

信・楽・人-shigaraki field gallery project-

信楽人

信楽地区の魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、信楽地区の魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、信楽地区の魅力を伝えるためのプロジェクトです。



信楽地区の魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、信楽地区の魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、信楽地区の魅力を伝えるためのプロジェクトです。

信楽人

信楽地区の魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、信楽地区の魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、信楽地区の魅力を伝えるためのプロジェクトです。

10 あかりんちゅ

AKARINCHU

Monday, March 24, 2014

project

あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。

ひこにゃんと一緒にイベント開催☆

あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。

続々、NEWキャンドル!!

あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。

local voice

あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。このプロジェクトは、あかりんちゅの魅力を伝えるためのプロジェクトです。

11 木興プロジェクト

木興プロジェクト 2014

宮城県本吉郡南三陸町 歌津田の浦にて復興支援の区切りを迎える。

本プロジェクトは、2011年3月11日の東日本大震災以降、宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦にて復興支援の一環として、2014年4月まで実施された。この間、地元住民との協力のもと、復興支援の区切りを迎えることとなった。

本プロジェクトの目的は、被災地の復興支援と、地元住民との交流促進にある。具体的には、復興支援物資の提供、地元産品の販売促進、地元住民との交流促進などを実施してきた。

本プロジェクトの成果として、復興支援物資の提供、地元産品の販売促進、地元住民との交流促進などが挙げられる。また、地元住民との交流促進を通じて、被災地の復興支援に対する理解が深まり、復興支援の推進に貢献した。

本プロジェクトの今後の展望として、被災地の復興支援と、地元住民との交流促進を継続して実施していくこととする。



12 かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-

かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-

「かみおかべ古民家活用計画」は、2014年4月から2015年3月まで実施された。この間、地元住民との協力のもと、古民家の活用計画を進めてきた。

本計画の目的は、古民家の活用と、地元住民との交流促進にある。具体的には、古民家の活用、地元産品の販売促進、地元住民との交流促進などを実施してきた。

本計画の成果として、古民家の活用、地元産品の販売促進、地元住民との交流促進などが挙げられる。また、地元住民との交流促進を通じて、古民家の活用に対する理解が深まり、古民家の活用推進に貢献した。

本計画の今後の展望として、古民家の活用と、地元住民との交流促進を継続して実施していくこととする。



13 地域博物館プロジェクト

地域博物館プロジェクト

地域博物館プロジェクトは、2014年4月から2015年3月まで実施された。この間、地元住民との協力のもと、地域博物館プロジェクトを進めてきた。

本プロジェクトの目的は、地域博物館の活用と、地元住民との交流促進にある。具体的には、地域博物館の活用、地元産品の販売促進、地元住民との交流促進などを実施してきた。

本プロジェクトの成果として、地域博物館の活用、地元産品の販売促進、地元住民との交流促進などが挙げられる。また、地元住民との交流促進を通じて、地域博物館の活用に対する理解が深まり、地域博物館の活用推進に貢献した。

本プロジェクトの今後の展望として、地域博物館の活用と、地元住民との交流促進を継続して実施していくこととする。



14 政所茶レン茶

政所茶レン茶

政所茶レン茶は、2014年4月から2015年3月まで実施された。この間、地元住民との協力のもと、政所茶レン茶プロジェクトを進めてきた。

本プロジェクトの目的は、政所茶レン茶の活用と、地元住民との交流促進にある。具体的には、政所茶レン茶の活用、地元産品の販売促進、地元住民との交流促進などを実施してきた。

本プロジェクトの成果として、政所茶レン茶の活用、地元産品の販売促進、地元住民との交流促進などが挙げられる。また、地元住民との交流促進を通じて、政所茶レン茶の活用に対する理解が深まり、政所茶レン茶の活用推進に貢献した。

本プロジェクトの今後の展望として、政所茶レン茶の活用と、地元住民との交流促進を継続して実施していくこととする。



15 たけとも一竹の会所 友の会-

たけとも 春祭り・夏祭り 開催

「たけとも夏祭り」は、毎年7月10日(日)に開催されています。今年も7月10日(日)に開催されました。当日は、お祭り気分を盛り上げるべく、お祭り音楽隊による演奏や、お祭り舞踏隊による舞踏、お祭り太鼓隊による太鼓演奏など、盛りだくさんのプログラムが用意されました。また、お祭り音楽隊による演奏や、お祭り舞踏隊による舞踏、お祭り太鼓隊による太鼓演奏など、盛りだくさんのプログラムが用意されました。



たけとも 便り

2015年 3月号 11頁



バンブーハウス2号建設

バンブーハウス2号の建設が完了しました。このハウスは、環境に優しい素材であるバンブーを使用し、自然との調和を大切に設計されています。現在は、地域の住民やボランティアの方々にご利用いただいております。



「たけとも夏祭り」

「たけとも夏祭り」は、毎年7月10日(日)に開催されています。今年も7月10日(日)に開催されました。当日は、お祭り気分を盛り上げるべく、お祭り音楽隊による演奏や、お祭り舞踏隊による舞踏、お祭り太鼓隊による太鼓演奏など、盛りだくさんのプログラムが用意されました。



16 とよさと快蔵プロジェクト

ビッグニュース!

とよさと快蔵プロジェクト 10th anniversary

快蔵プロジェクトは、地域住民とボランティアが協力して取り組んでいる社会福祉プロジェクトです。10周年を迎えるにあたり、これまでの活動の振り返りや、今後の展望についてご報告いたします。



とよさと快蔵プロジェクト

2005年4月に発足したとよさと快蔵プロジェクトは、地域住民とボランティアが協力して取り組んでいる社会福祉プロジェクトです。10周年を迎えるにあたり、これまでの活動の振り返りや、今後の展望についてご報告いたします。

プロジェクト自慢

「まちのふれあひ」

「まちのふれあひ」は、地域住民とボランティアが協力して取り組んでいる社会福祉プロジェクトです。地域の絆を深め、互いに支え合える社会の実現を目指しています。



まちの方々の声

「まちのふれあひ」を通じて、地域住民とボランティアが協力して取り組んでいる社会福祉プロジェクトです。地域の絆を深め、互いに支え合える社会の実現を目指しています。



成果と課題

快蔵プロジェクトは、地域住民とボランティアが協力して取り組んでいる社会福祉プロジェクトです。10周年を迎えるにあたり、これまでの活動の振り返りや、今後の展望についてご報告いたします。



快蔵プロジェクトは、地域住民とボランティアが協力して取り組んでいる社会福祉プロジェクトです。10周年を迎えるにあたり、これまでの活動の振り返りや、今後の展望についてご報告いたします。



17 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト

ボランティアサークル Harmony 新聞

「 Harmony 」は、障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクトのボランティアサークルです。地域住民とボランティアが協力して取り組んでいます。

プロジェクト紹介

プロジェクトの目的や活動内容についてご紹介します。

地域の声

地域の声や活動の様子についてご紹介します。



18 おとくらプロジェクト

おとくら5年目突入

おとくらプロジェクトは、地域住民とボランティアが協力して取り組んでいる社会福祉プロジェクトです。5周年を迎えるにあたり、これまでの活動の振り返りや、今後の展望についてご報告いたします。

地域と未来者の「まじ」

地域と未来者の「まじ」についてご紹介します。

イベントのバリエーション

イベントのバリエーションについてご紹介します。



3 共通プログラムの報告



3-1 近江楽座 10 周年記念企画「学生地域活動交流キャンプ in 琵琶湖」



日 時：平成 26 年 11 月 29 日（土）
 13:00～17:45
 会 場：E5 棟、看護食堂ナシエリア、A7 棟
 参加者総数：約 100 名

近江楽座 10 周年を記念し、2014 年度の中間報告会は近江楽座 OBOG や他大学の学生を交え、活動発表と交流を行った。

<主旨>

近江楽座の活動が 10 年を迎え、一方で地域の問題が多様化・深刻化する中、学生が地域と関わることは地域への貢献活動からさらに一歩進んで、自分たちの未来への貢献活動と呼べるものになってきている。

この 10 年間に、近江楽座のような学生主体の地域活動が全国各地の大学に広がり、また学生時

代の活動経験等を基に、起業したり、地域おこしに関わっている若い世代も増えてきている。この機会に、全国各地でがんばっている大学に呼びかけ互いの経験に学び交流するとともに、先輩たちとも語り合い、自分たちが地域で活動する意味を再確認し、それぞれの今後の取り組みの糧にしていきたい。

<プログラム>

1. オープニング
 2. 基調講演
 3. トークセッション「先輩に聞く！」
 4. 活動報告会
 5. 活動ポスター展
 6. 交流会
 7. 閉会式
 8. 夕食
 9. 夜なべ談義
- オプション企画（11 月 30 日午前）
 「近江楽座の活動フィールド見学会」

| オープニング

近江楽座座長である印南先生から開催趣旨説明をしていただき、大田理事長より開会のご挨拶をしていただきました。

そして、2014 年 9 月に近江楽座の活動に向かう途中、交通事故で亡くなった佐々木優君を偲び、黙祷しました。



近江楽座専門委員会 印南委員長より趣旨説明



大田理事長による開会のご挨拶



上田洋平先生による基調講演

｜ 基調講演

本学の卒業生である上田洋平先生（本学助教）による基調講演を行いました。

世界史的な転換期に差し掛かったと言われるこの時代に、地域貢献に特化した課外活動は、大いに「葛藤するチャンス」を学生に与える。そこで、学生たちは多くのことを学び、新しい時代の先頭を走る力を身に付けることができるのではないか、と自身の38年間と、そして滋賀県立大学の20年間で振り返ってのお話でした。

｜ トークセッション「先輩に聞く！」

A～Dの会場にわかれ、近江楽座 OBOG をゲストにトークセッションを行いました。

大学を卒業されてからも様々な現場でご活躍されている近江楽座 OBOG の皆さんに、学生時代の活動や現在のお仕事などについて、発表していただきました。参加学生の皆さんと同じく、地域活動に取り組んできた先輩たちならではの実感のこもったアドバイスをいただきました。

Ⅰ 活動報告会

トークセッションの後、それぞれの会場で近江楽座や他大学の学生が活動報告を行いました。どのチームも地域の課題に真剣に取り組みながら活動を行っていることが伝わりました。様々な大学の学生活動を知ることができ、近江楽座のメンバーにとっても参考になることが多かったようです。

Ⅱ 活動ポスター展

A～D 会場に隣接する廊下では、それぞれの会場で活動報告を行ったチームのポスター展を開催しました。ポスターは内容やデザイン等、自由に作成してもらいました。各チームごとの活動内容やアピールポイント等がよく伝わってくる展示会になりました。

<OBOG トークセッション&活動報告会 グループ分け>

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
会場	E5-101	E5-102	A7-101	A7-102
ゲスト講師	中野優さん (KIITO/ デザイン・クリエイティブセンター神戸、「とよさと快蔵プロジェクト」OB)	山形蓮さん (地域おこし協力隊、「くつきチーム」OG)	迫間勇人さん (彦根商工会議所、「C3」OB)	盛千嘉さん (明山窯 Ogama、「信・楽・人」OG)
トークセッションテーマ	暮らしとデザイン	地域を紡ぐ	社会起業家と地域デザイン	発信拠点
コメンテーター	松岡拓公雄先生	上田洋平先生	奥貫隆先生	印南比呂志先生
報告会テーマ	子ども・教育・発信	地域資源活用	地域協働	交流・拠点・被災地支援
参加チーム	フラワーエネルギー「なの・わり」	三階蔵部	Taga-Town-Project	未来看護塾
	滋賀県大 BASSER'S	男鬼楽座	活輝創生実行委員会「リ・デザイン高知！」(高知県立大学)	田の浦ファンクラブ学生サポートチーム
	GP「海と湖を舞台とする、やる気触発プログラム」(福井県立大学)	とよさただプロジェクト	政所茶レン茶*ー	木興プロジェクト
	あかりんちゅ	COME ☆ RISH (コメリッシュ) それいけ!大野見工 コ米～ No Rice, No Life ～ (高知県立大学)	「高山竹あかり」広報活動 (奈良県立大学)	信・楽・人 — shigaraki field gallery project —
	御杖村寺子屋プロジェクト (奈良県立大学)	スチューデント・キュレーターズ	たけとも — 竹の会所 友の会 —	高津専門ゼミ「しあわせの王寺計画」観光ルート班 (奈良県立大学)
	ボランティアサークル Harmony	斑鳩ゆかしかるプロジェクト2013 (奈良県立大学)	とよさと快蔵プロジェクト	高津専門ゼミ「しあわせの王寺計画」イベント班 (奈良県立大学)
		おとくらプロジェクト		かみおかべ古民家活用計画 — SLEEPING BEAUTY —



OBOG トークセッション
A会場ゲスト講師：中野優さん



OBOG トークセッション
C会場ゲスト講師：迫間勇人さん



OBOG トークセッション
B会場ゲスト講師：山形蓮さん



OBOG トークセッション
D会場ゲスト講師：盛千嘉さん



活動報告会
信・楽・人-shigaraki field gallery project-



学生委員会が作成したパンフレット

交流会

すべてのメインプログラム終了後は、交流会を開催しました。地元の和菓子屋である株式会社大菅製菓さんのお菓子とお茶を手に、参加者同士さらに親睦を深めました。

夜なべ談義

宿泊施設である荒神山自然の家で、地元産の飲み物や食べ物を囲みながら語り合いました。オセロやカロムといったボードゲームで遊ぶ人もいて、参加者同士、とても打ち解けた雰囲気での交流を深めました。

まとめ

学生の地域活動について、大学間の枠を超えて互いに学び合うことができ、10年の節目をむかえる近江楽座の“これから”に繋がるイベントとなりました。



夜なべ談義：カロム



夜なべ談義



| オプション企画

「近江楽座の活動フィールド見学会」

日時：平成26年11月30日(日)

翌日には、オプション企画として近江楽座の活動地を訪ねるツアーを行いました。各フィールドのチームメンバーによるガイドのもと、2コースに分かれてまちあるきやワークショップ等を行いました。

○Aコース

フラワーエネルギー「なの・わり」(滋賀県立大学)
 →かみおかべ古民家改修計画(彦根市上岡部町)
 →おとくらプロジェクト(彦根市高宮町)

○Bコース

とよさと快蔵プロジェクト(犬上郡豊郷町)
 →政所茶レン茶(東近江市政所町)



かみおかべ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-
大西邸でのワークショップの様子



おとくらプロジェクト
メンバーの入れたコーヒーやお菓子を堪能



フラワーエネルギー「なの・わり」
ひまわりの種の採油の体験の様子



とよさと快蔵プロジェクト
磯辺邸の見学の様子

3-2 地元学入門

Ⅰ 地元学入門

地元学入門とは「地域に学ぶための基礎的理論や手法を習得する」ことを目的としている講義です。

近江楽座の担当教員によるオムニバス形式で、「近江楽座」の実施プロジェクトを題材に、学生力を生かした地域貢献活動について学んでいきます。楽座学生もゲストスピーカーとして参加します。

<発表スケジュール>

▽11月6日(木) 近江楽座事務局、近江楽座学生委員会

▽11月12日(水) 県大 BASSER'S

▽11月17日(月) 町活 in 八幡、男鬼楽座

▽11月24日(月) 政所茶レン茶[®]ー、スチューデント・キュレーターズ

▽12月1日(月) Taga-Town-Project、とよさと快蔵プロジェクト、おとくらプロジェクト

▽12月8日(月) とよさらだプロジェクト、かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-

▽12月15日(月) 未来看護塾、ボランティアサークル Harmony

▽12月22日(月) 木興プロジェクト、たけとも一竹の会所友の会

▽1月19日(月) 田の浦ファンクラブ学生サポートチーム、あかりんちゅ

▽1月26日(月) 信・楽・人 -shigaraki field gallery project-

11月6日(月)には、「近江楽座とは」ということで近江楽座事務局が「近江楽座のガイダンス」と、「近江楽座の10年の活動の厚みと学生の成長について」というテーマでお話をさせていただきました。

「近江楽座10年の活動の厚みと学生の成長について」では、前半を講義形式で、後半をワークショップ形式で行いました。

まず各年度の活動報告書から、いくつかのチームを事例にとり、「活動を通して学んだこと」という学生からのコメント欄の項目を表にまとめた資料を配布しました。そこから、受講学生の皆さんに近江楽座の学生がどのようなことを学び、感じながら、活動に取り組んでいるのかキーワードを見つけてもらい、付箋(緑)に書き出してってもらいました。



近江楽座事務局による講義の様子



ワークショップの様子

3-3 活動報告会



日 時：2015年4月18日(土) 9:30-16:15

会 場：講義室 A3-301

参加者：約 80 名

2014年度の近江楽座採択プロジェクトの活動報告会を行いました。

<プログラム>

- 挨拶・プログラム説明
- 活動発表 パート1
- 活動発表 パート2
- 10周年事業の取り組み
- 活動発表 パート3
- 活動発表 パート4
- 全体総括

活動発表会

全18プロジェクトを、紡ぎのカタチ①「^つ継ぐ」②「^{たがえ}耕す」③「^{うつわ}器」④「^{わざ}技」の4つのパートに分け、各チーム発表7分、質疑・コメント5分にてチームの発表を行いました。学外から2人のゲストをお呼びして、活動を客観的に評価をしていただきました。また、会場からも発表チームへの質問や意見、地域関係者の方からの期待の声などのコメントをいただきました。

<活動助言者>

- 石野啓太さん(信楽焼窯元 明山窯)
- 田口真太郎さん(株式会社まっせ)

<活動報告会 グループ分け>

パート1 (9:45 ~ 10:45) 紡ぎのカタチ①「 ^つ 継ぐ」	パート2 (10:55 ~ 12:10) 紡ぎのカタチ②「 ^{たがえ} 耕す」	パート3 (13:40 ~ 14:40) 紡ぎのカタチ③「 ^{うつわ} 器」	パート4 (14:50 ~ 16:05) 紡ぎのカタチ④「 ^{わざ} 技」
未来看護塾	滋賀県大 BASSER'S	Taga-Town-Project	フラワーエネルギー 「 ^な の・ ^わ り」
男鬼楽座	三階蔵部	木興プロジェクト	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム
政所茶レン茶ー	とよさらだ	かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-	信・楽・人 -shigaraki field gallery project-
ボランティアサークル Harmony	たけとも一竹の会所 友の会ー	スチューデント・ キュレイターズ	あかりんちゅ
	とよさと快蔵プロジェクト		おとくらプロジェクト



チームの活動発表の様子
(Taga-Town-Project)

10周年記念事業の取り組み

○近江楽座アーカイブの紹介

3月末よりリニューアルし、10年間の取り組みをアーカイブ化した近江楽座ホームページを、事務局が紹介しました。

○「学生地域活動交流キャンプ in 琵琶湖」報告

10周年記念事業として取り組んだ「学生地域活動交流キャンプ in 琵琶湖」について、学生委員会が報告しました。



助言者の方々
(右が石野さん、左が田口さん)



近江楽座 OB の方の貴重な意見もいただきました



「学生地域活動交流キャンプ in 琵琶湖」の報告の様子

活動成果展示会

日時：2015年4月22日(水)～28日(火)

会場：交流センター ホワイエ

2014年度の近江楽座チームが作成した印刷物や刊行物などの”成果物”、”活動報告新聞”、活動紹介パネル等を交流センターホワイエにて展示しました。



フラワーエネルギー「なの・わり」展示
エネルギーとして使うひまわりが飾られている



Taga-Town-Project 展示
多賀町マスコットキャラクター「たがゆいちゃん」の飾りが目を引く

4 学生有志活動

4-1 近江楽座 合同説明会



新入生や在學生に"近江楽座や近江楽座チームをもっと知ってもらおう!","活動に興味を持ってもらおう!"という目的で、近江楽座学生委員会の呼びかけにより、13の有志チームによる近江楽座説明会が開催されました。

| 学生委員会とは

近江楽座をさらに推進していくために、チーム間の交流・連携を目的として発足した有志学生による組織です。2006年に、当時のプロジェクトチームの代表経験者が中心となり結成されました。学部・学科・プロジェクトの枠を超えて活動の輪を広げ、地域活性化に貢献するためのネットワーク形成を目指し、学生ならではの視点で近江楽座をサポートしています。

| 近江楽座合同説明会

日時：2014年4月30日(水)～5月1日(木)
会場：交流センター ホワイエ
開催内容：ブース相談会
同時開催：「あかりんちゅ」キャンドルナイト

<参加チーム>

- スチューデント・キュレーターズ
- おとくらプロジェクト
- かみおかべ古民家活用計画
- とよさらだプロジェクト
- 政所茶レン茶一
- 男鬼楽座
- 滋賀県大 BASSER'S
- Taga-Town-Project
- 信・楽・人
- 三階蔵部
- とよさと快蔵プロジェクト
- あかりんちゅ
- 田の浦ファンクラブ学生サポートチーム

説明会は両日共に和やかな雰囲気、新入生たちは熱心にメンバーの話を聞いていました。





合同説明会全体の様子



「あかりんちゅ」
キャンドルナイトの準備



チームごとに特色のあるブース



「あかりんちゅ」キャンドルナイト
交流センター前を華やかに演出しました

4-2 オープンキャンパス

日 時：2014年7月26日(土)～27日(日)

9:00-15:00

会 場：学生ホール

本学オープンキャンパスにて、学生委員会が中心となり、活動紹介(近江楽座の説明、相談・質問コーナー等)やトークライブを行いました。会場には、活動写真のスライドショー、各チームの紹介ムービー、10周年企画ムービーがスクリーンに映し出され、リーフレットや楽座新聞、報告書といった資料が用意されていました。

トークライブでは、くじを引いて予め用意されたお題をもとにトークしてもらいました。「近江楽座での活動」についてはもちろん、「自分はどんな高校生だったのか」、「大学にはいって変わったこと」など、様々なテーマが用意されていました。会場には親子で聞いている方もおられました。



学生委員会メンバー作成のメイミィがお出迎え



参加メンバー

4-3 ぞろぞろ会

楽座っ子どもの交流会！

ぞろぞろ会を 開催します！

みんなでつくろう
おいしいおにぎり！

日程：2014年7月11日（金）
時間：18:30～20:00
場所：交流センター 研修室 1,2,3

内容：好きな具材を入れておにぎりを作って
みんなでおはなししながら食べる予定です。七夕も
近いで短冊にお願いごとをかけたリハになる
楽座の子とお話できるチャンスです！ @ole' v' *h33

参加費：500円（1回生は無料！）

みなさまのご参加お待ちしております！（^▽^）ノ
気軽にお話しましょう！

参加申込み締切り▷6月30日（月）
連絡先：石森（greenbird4416@yahoo.co.jp）まで
★件名は「ぞろぞろ参加希望」と記載していただき
学部・学科・〇回生・氏名を上記連絡先まで送ってください

主催：近江楽座学生会委員会、有志チーム



日 時：2014年8月7日（木）18:30-20:00
（7月11日予定だったが台風により延期）
会 場：交流センター研修室1～3
参加者：約20名

近江楽座メンバー同士の交流を目的とする「ぞろぞろ会」が開催されました。

各々好きな具を入れておにぎりを作り、自己紹介や活動の紹介を通して交流しました。楽座で活動をはじめたばかりの1回生は、先輩たちに気になることを沢山聞いている様子でした。

学部・学科、そして各プロジェクトに関係なく交流でき、新たなネットワークづくりや情報交換の場となりました。



5 他大学等との交流

5-1 福井大学視察

日 時：2014年8月12日(火)

場 所：彦根市上岡部町、犬上郡豊郷町

福井大学から、建築建設工学の学生さん7名と先生1名が近江楽座の活動の視察に来られました。今回お越しくくださった福井大学の皆さんはこれから空き家活用のプロジェクトを進めようとしておられます。そこで先進事例として、空き家を活用した活動を行っている「かみおかべ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-」と「とよさと快蔵プロジェクト」の2チームへ依頼し現地視察に伺いました。

午前中は、彦根市上岡部町で古民家を拠点に活動しているかみおかべ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-を見学しました。今年で活動継続2年目を向かえるチームで、家屋の改修に加えて、地域行事への参加、“食事会”や子ども向けの“図工教室”といったイベントの企画開催を通して、地域の方々との交流を深めています。代表の石森さんに案内していただきました。



上岡部町を案内する様子

午後からは、「とよさと快蔵プロジェクト」の活動を見学しました。NPO法人とよさとまちづくり委員会と協働し、様々な空き家活用の可能性を、実践を通して見いだす活動をしています。今年で活動継続10年目をむかえ、これまでに改修した

物件は10件にのぼります。今回は、学生たちによって改修された物件の中から、イベントスペース「満ち家」、学生シェアハウス兼コミュニティスペース、Bar タルタルーガなどの4カ所を見学しました。



古民家での「とよさと快蔵プロジェクト」の活動紹介

それぞれの活動場所では、質問が次々と飛び交い、これからの活動に活かせることがないか、積極的に学び取ろうとする姿に、私達も刺激を受けました。これからプロジェクトを進めていかれるなかで、またこのような交流の場を持って互いに切磋琢磨できるような機会があると素晴らしいと思います！



福井大学の皆さんと近江楽座チーム

5-2 中部地区 COC 事業採択校「学生交流会」

日 時：2015 年 3 月 5 日（木） 13:30～

会 場：じゅうろくプラザ（岐阜駅前）

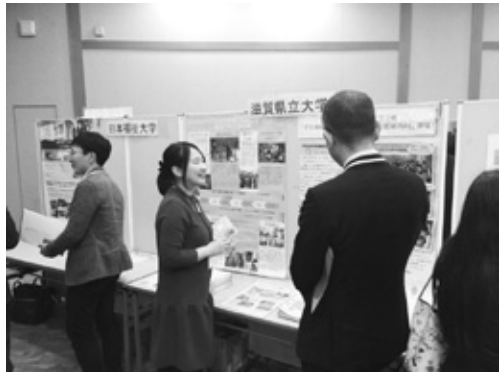
岐阜大学主催の中部地区 COC 事業採択校「学生交流会」が開催され、COC 事業採択校 12 校が参加しました。

本学からは、近江楽座プロジェクト「かみおかべ古民家活用計画－SLEEPING BEAUTY－」と近江楽座学生委員会のメンバーとして活動している村尾友香さんが参加し、プロジェクトの活動紹介と、近江楽座 10 周年記念企画の開催報告を、プレゼンテーションとポスターセッションを通じて行いました。

近江楽座の活動は「10 年も継続している」「学生が主体で地域を巻き込んで活動を行っている」と高い評価をいただきました。



活動発表の様子



ポスターセッション 本学のブースにて近江楽座の活動を介绍する様子



情報発信

近江楽座ホームページの運営

URL : <http://ohmirakuza.net/>

滋賀県立大学における、学生の地域活動に関するポータルサイトである近江楽座ホームページの運営を行い、最新情報を更新しています。

また、今年度は近江楽座開始から10年が経つということで、ホームページの大幅なリニューアルを行い、10年間の活動をアーカイブ化しました。

<コンテンツ>

- プロジェクト
- 楽座人物図鑑
- 楽座文庫
- トピックス (事務局からのお知らせ)
- 学生専用ページ
- ブログアップデート (各プロジェクトの最新情報)

<リニューアル内容>

- トップページ変更
- プロジェクト、楽座文庫のアーカイブ化
- 楽座人物図鑑の設置
- イベントカレンダーの設置
- トップニュース表示

リニューアルした近江楽座ホームページは2015年3月末から運用開始いたしました。



近江楽座ホームページ (トップページ)



近江楽座ホームページ (楽座人物図鑑)

プロジェクトレポート

事務局スタッフが、実際にプロジェクトの現場を訪れ、活動レポートを作成・発行しました。本年度は計2号発行。発行したレポートは、学内食堂前にある近江楽座掲示板と、近江楽座ホームページ上で掲載しました。

<2014年度プロジェクトレポート>

- [かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-]
上岡部ひょうたん工房
- [とよさと快蔵プロジェクト]
10周年記念「カルタ de かたる」



プロジェクトレポート一覧
左：かみおかべ古民家活用計画
右：とよさと快蔵プロジェクト

活動紹介リーフレット2014

近江楽座プロジェクトで活動する学生に依頼し、近江楽座全体の取り組みや、本年度近江楽座に採択された18プロジェクトを写真入りで紹介するリーフレットを作成しました。

10周年記念ということで、カラフルに仕上がっています。

デザイン：吉田瑛里奈（とよさと快蔵プロジェクト）



近江楽座活動紹介リーフレット2014

7 付録

7-1 プログラム推進メンバー※

事業推進代表者
事業推進責任者

滋賀県立大学理事長 大田啓一
近江楽座専門委員会 委員長 印南比呂志

近江楽座専門委員会

環境科学部	浦部美佐子 林宰司 松岡拓公雄 村上修一 迫田正美
工学部	河崎澄 柳澤淳一
人間文化学部	濱崎一志 石川慎治 印南比呂志 佐々木一泰 細馬宏通
人間看護学部	伊丹君和 横井和美
地域共生センター	鵜飼修

近江楽座事務局

秦憲志
池山邑華
田中真理子

※ 2014 年度 (平成 27 年 3 月末時点)

このほか、近江楽座に関わり支援いただいたすべての方にお礼申し上げます。



7-2 メディア掲載一覧

No	日時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
1	2014.6.18	フラワーエネルギー「なの・わり」	中日新聞滋賀版	驚き!手のひら発電
2	2014.6.30	フラワーエネルギー「なの・わり」	しが彦根新聞	滋賀県立大生グループ フラワーエネルギー「なの・わり」出前講座で資源再生教える
3	2014.10.26	滋賀県大 BASSER'S	中日新聞朝刊	水生生物観察会 子らに生態説明
4	2014.10.28	滋賀県大 BASSER'S	朝日新聞朝刊	県立大生と「水路探検」
5	2015.3.10	未来看護塾	読売新聞しが県民情報	県立大 三陸に若い力を 現地就職、まちづくり 学生ら建物再建、催し
6	2014.9.6	三階蔵部	しが彦根新聞	八幡堀を歩こう
7	2014.9.13	三階蔵部	ZTV 近江八幡支局	
8	2014.9.30	男鬼楽座	中日新聞	茅葺き屋根修復に汗 余呉で「古民家再生塾」
9	2014.7.29	Taga-Town-Project	京都新聞	eモールたがの取材風景を視察
10	2014.11.27	Taga-Town-Project	京都新聞 滋賀版	商店のいいところ FBに
11	2014.8.18	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	三陸新聞	大学生が原動力に 南三陸町田の浦港 番屋復旧やイベントなど
12	2014.8.16	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	中日新聞	県立大生が「海の運動会」 元気な「南三陸・田の浦」に
13	2014.8.18	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	河北新報	住民笑顔「海の運動会」
14	2014.8.30	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	朝日新聞	被災地元気に 海の運動会 県立大生ら 宮城の南三陸で開催
15	2015.3.10	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	読売新聞しが県民情報	県立大 三陸に若い力を 現地就職、まちづくり 学生ら建物再建、催し
16	2015.3.12	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	中日新聞	鎮魂の灯 南三陸で県立大生と
17	2015.3.12	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	京都新聞	3.11 湖国追悼の灯 滋賀各地で復興願う
18	2015.3.13	田の浦ファンクラブ 学生サポートチーム	近江同盟新聞	東日本大震災から4年東北へ 彦根から県立大生や市民が支援
19	2014.11.1	あかりんちゅ	エコトピア第24号	環境フォーラム湖東交流会「エコサロン15」実施報告
20	2014.12.21	あかりんちゅ	中日新聞	伝統電飾に歓声 大垣・OKBストリート キャンドルも
21	2014.12.22	あかりんちゅ	岐阜新聞	OKBストリート1周年でイベント
22	2014.12.22	あかりんちゅ	読売新聞	OKBストリート命名1年イベント 大垣で
23	2014.12.22	あかりんちゅ	ぎふチャン「NEWS ぎふチャン」	OKBストリート キャンドルナイト
24	2015.2.13	あかりんちゅ	しが彦根新聞	夢京橋ライトアップ 四番町も灯花会
25	2014.8.13	木興プロジェクト	京都新聞	私たちの「3.11」
26	2015.3.10	木興プロジェクト	読売新聞しが県民情報	県立大 三陸に若い力を 現地就職、まちづくり 学生ら建物再建、催し
27	2014.11.1	かみおかべ古民家活用計画	京都新聞	ヒョウタンつなぐ地域の輪
28	2015.3.8	かみおかべ古民家活用計画	滋賀県愛瓢会	加工の部 銀賞

No	日時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
29	2014.6.10	地域博物館プロジェクト	読売新聞	近江の博物館 LOVE & JOY 立命、県立大留学生ら英語ガイド本
30	2015 春号	地域博物館プロジェクト	サンライズ出版 Duet	地域を学ぶミュージアム・ツアー
31	2014.6.1	政所茶レン茶バー	中日新聞	「政所茶」復興目指す 東近江 県立大生が新芽摘み
32	2014.6.2	政所茶レン茶バー	毎日新聞	政所茶 茶レン茶バーが新茶摘み 県立大生ら銘茶復興目指す
33	2015.3.29	政所茶レン茶バー	中日新聞	東近江 政所の肥料入れ 学生や生徒らお手伝い
34	2014.2.12	とよさと快蔵プロジェクト	京都新聞	移住促進 鍵は住民協力
35	2014.10.17	とよさと快蔵プロジェクト	中日新聞	古民家を改修して雑貨展示やライブ
36	2014.10.25	とよさと快蔵プロジェクト	読売新聞	近江すたいる シェアハウス 磯部邸 豊郷住民も井戸端会議
37	2014.11.7-11.28	ボランティアサークル Harmony	FM ひこね	クリスマスイベント告知
38	2014.11.28	ボランティアサークル Harmony	中日新聞	ハーモニー&メロディー クリスマスコンサート～障がい児・者と共に集う音楽会～
39	2014.11.30	ボランティアサークル Harmony	中日新聞	Xマスコンサート 東近江のNPOと協力
40	2014.10.4	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	5周年記念「沙羅」ジャズコンサート
41	2014.10.23	おとくらプロジェクト	毎日新聞	古民家「おとくら」5周年
42	2014.4.4	近江楽座	朝日新聞	県立大学「近江楽座」活動報告会
43	2014.4.18	近江楽座	中日新聞	県立大「近江楽座」活動報告会
44	2014.4.20	近江楽座	京都新聞	地域貢献 課題など説明 「近江楽座」プロジェクト 県立大生が活動報告
45	2014.5.16	近江楽座	中日新聞	県立大スチューデントファーム近江楽座公開プレゼンテーション
46	2014.5.18	近江楽座	中日新聞	県立大 地域活動 学生がPR 「近江楽座」18組公開プレゼン
47	2014.5.18	近江楽座	京都新聞	県立大、「近江楽座」公開プレゼン 学生の知恵で地域活性化

公立大学法人 滋賀県立大学
スチューデントファーム「近江楽座」
まち・むら・くらしふれあい工舎

2014 年度活動報告書

平成 28 年 2 月発行

発行	公立大学法人 滋賀県立大学 地域共生センター 〒 522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500 TEL. 0749-28-8616 FAX. 0749-28-8473
企画・編集	近江楽座事務局
印刷・製本	近江印刷株式会社
構成・デザイン	廣嶋泉

本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製、転載することは禁止されています

最新情報は、近江楽座ホームページ：<http://ohmirakuza.net> をぜひご覧ください